

文 学 部  
神 学 科

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
10111	神学入門Ⅱ [再]	必	秋学期	2	3・4	MARX Hans Jürgen	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 共通教育科目00103「キリスト教概論 [HC]」を参照。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
10141	形而上学Ⅰ	必	春学期	2	3・4	蒔 苗 暢 夫	
他の科目との関連	形而上学Ⅱの前提科目であり、同一年度の履修が望ましい。					他学科履修	可

【副 題】 哲学入門

【講義内容】 哲学とは何か、何を問い続けて来たかを、主としてプラトン、アリストテレス、トマス・アクィナスの基本概念、命題を手懸かりに考察する。

【講義計画】 以下の順で進められる。  
 (1)愛智としての哲学  
 (2)philosophiaの異称  
 Metaphysica, Ontologia、形而上学  
 (3)erosとphilosophia  
 (4)真実在への問い——魂の向け変えとしての哲学——

【評価方法】 授業に対する姿勢と筆記試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 随時プリント配布。参考文献：プラトン『饗宴』、『国家』、アリストテレス『形而上学』、『ニコマコス倫理学』

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
10151	形而上学Ⅱ	必	秋学期	2	3・4	蒔 苗 暢 夫	
他の科目との関連	形而上学Ⅰを前提にしている、同一年度の履修が望ましい。					他学科履修	可

【副 題】 真実在への問い

【講義内容】 存在とは何か、その究極的根源は、といった根源的な問いを、主としてプラトン、アリストテレス、トマス・アクィナスの基本概念、命題を手懸かりに考察する。

【講義計画】 以下の順で進められる。  
 (1)存在の忘却  
 (2)存在論の復権  
 (3)トマスにおける超越概念  
 (4)存在と本質  
 (5)アナログア

【評価方法】 授業に対する姿勢と筆記試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 随時プリント配布。参考文献：トマス・アクィナス『神学大全』、『真理論』

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10401 10405	旧約聖書学A I・A II	選必	春学期 秋学期	各2	3・4	岡崎 才蔵	
他の科目との関連	旧約聖書入門を受講した後に、受講して下さい。					他学科履修	可

【副題】 「モーセ五書を読む」

【講義内容】 『旧約聖書』の最初の五冊をモーセ五書、モーセの律法あるいは五書と呼びならわしている。それは宇宙の起源からモーセの死に至るまでの歴史を原初時代（創世記1-11章）、族長時代（創世記12-50章）、モーセ時代（出エジプト記・レビ記・民数記・申命記）の三時代に分けて、いかに神が一つの民を選び、導いたかを物語ったものである。しかし、それと同時に、神の掟として考えられている律法を掲載している。従って、前期では物語に焦点をあて、まずは物語の内容を知ることの主眼を置く。後期では律法に焦点をあてて、その性格や特徴を紹介することにする。

【講義計画】 前期のテーマ  
 1. モーセ五書の資料文書説  
 2. 原初史物語（創世記1-11章）  
 3. 族長物語（創世記12-36章）  
 4. ヨゼフ物語（創世記37-50章）  
 5. エクソドス物語（出エジプト記1-民数記27章）

後期のテーマ  
 1. 十戒（出エジプト記20章1-21節）  
 2. 契約の書（出エジプト記20章22-24章）  
 3. 祭司法典（出エジプト記25章-レビ記16章）  
 4. 神聖法典（レビ記17-26章）  
 5. 申命記法典（申命記1-34章）

各テーマに対し2～3回の講義時間を割り当てる。テキストは『旧約聖書』であるから、出席者は必帯こと。

【評価方法】 成績は学期中に提出を求めるレポートと授業態度、それに学期末に行う試験の結果により成績評価を行う。

【テキスト】 『旧約聖書』

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10421	新約聖書学A I（共観福音書I）	選必	春学期	2	3・4	江川 憲	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 共観福音書

【講義内容】 マルコ福音書を中心に、共観福音書中のイエスの物語伝承部分の釈義を行う。

【講義計画】 1. 序論  
 2. マルコ福音書の構成  
 3. マルコ福音書の意味内容  
 ①重要な章節の釈義  
 ②マルコの神学  
 ③マタイ・ルカとの比較  
 4. マルコ福音書の機能

【評価方法】 レポート。出席も重視する。

【テキスト】 講義の中で参考文献を提示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
10431	新約聖書学B I (ヨハネ文書 I)	選必	秋学期	2	3・4	江 川 憲
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 ヨハネ文書

【講義内容】 ヨハネ福音書を共観福音書と比較しながら、その特徴を浮かび上がらせ、総合的な理解を目指す。

【講義計画】

1. 序論
2. ヨハネ福音書の構成
3. ヨハネ福音書の意味内容
  - ①重要な章節の釈義
  - ②ヨハネの神学
4. ヨハネ福音書の機能

【評価方法】 レポート。出席も重視する。

【テキスト】 講義の中で参考文献を指示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
10451	神学的人間論A I	選必	春学期	2	3・4	西 脇 純
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 人間とは何か

【講義内容】 カントによれば、従来の形而上学、道徳、宗教の根本問題は「人間とは何か」という問いに尽きる。近代思想の種々の答えの意義を問い質し、社会主義、ファシズムにおける行き詰まりを確認した後、キリスト教伝承に見られる人間理解への再評価の準備をする。

【講義計画】

- ①「人間学的転換」 i) 近代思想の誕生 ii) 宗教改革 iii) 無限宇宙の発見
- ②信仰と理性 i) 近代哲学の誕生 ii) 近代哲学の総決算 iii) 哲学と神学の再構想
- ③近代の終末 i) フォイエルバハ ii) マルクス iii) ニーチェ
- ④人間の本質 i) 神の似姿 ii) 精神 iii) 自己超越

【評価方法】 筆記試験、出席、授業態度等から総合的に評価する。

【テキスト】 講義録プリント（講義終了後配布）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
10465	三位一体論 I	選必	秋学期	2	3・4	久 松 英二
他の科目との関連						他学科履修不可

【講義内容】 本講では、キリスト教信仰に本質的な「三位一体論」が新約聖書時代に続く「教理」の歴史において、どのような発展を遂げていったのかを検討する。まず、イエス・キリストと御父との関係をめぐる教理確立の過程を辿り、次いで聖霊に関する教理の発展と、その独自の原動力を明らかにする。さらに、古代からフィレンツェ公会議に至るまでの東西両教会の異なる伝承の歩みを辿り、最後に組織神学的な考察をも

って総括したい。

【講義計画】

1. 父と子の関係
  - 1-1 ユダヤ教伝承の行き詰まり
  - 1-2 ヘレニズム伝承の貢献
  - 1-3 教理の確立
2. 父と子の霊
  - 2-1 聖霊の働き
  - 2-2 聖霊に関する教理の確立と特徴
  - 2-3 フィリオクエの問題
3. 三位一体の秘儀
  - 3-1 東西両伝承の異なる出発点
  - 3-2 中世の東方・西方神学
  - 3-3 コンスタンティノポリス公会議以降の諸教理
4. 神学的考察
  - 4-1 精神のアナロギア
  - 4-2 愛のアナロギア
  - 4-3 我・汝・われわれ

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

随時プリントを配布。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10491	啓示論 I	選必	春学期	2	3・4	鳥巢 義文	
他の科目との関連	聖書学、神論、キリスト論の基礎知識を前提とする。					他学科履修	可

【副題】

啓示、伝承、聖書について

【講義内容】

第二ヴァチカン公会議の『啓示憲章』および現代神学における「啓示」「伝承」「聖書」の理解について検討する。

【講義計画】

- まず『啓示憲章』をひも解き、公会議の教説を学ぶ。同時に、その後の神学研究を参照しながら、「啓示」「伝承」「聖書」をめぐる伝統的理解や現代的解釈について批判的に検討していく。
- 1 啓示とは何か
  - 2 伝承について
  - 3 聖書と解釈について
  - 4 旧約について
  - 5 新約について
  - 6 教会生活における聖書について

【評価方法】

講義、議論への参加、レポート、学期末試験などによる。

【テキスト】

南山大学監修『第2バチカン公会議公文書全集』（サンパウロ、1995年）

【その他】

南山大学監修『世界に呼びかける教会』公会議解説叢書2（サンパウロ、1968年）  
 和田幹男『私たちにとって聖書とは何なのか—現代カトリック聖書靈感論序説』（女子パウロ会、1994年）  
 山岡三治・井上英治『啓示と宗教』（サンパウロ、1998年）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
10511	基礎倫理神学Ⅰ	選必	春学期	2	3・4	濱口 吉隆	
他の科目との関連	倫理神学各論を取り扱うための原理論					他学科履修	可

【講義内容】 倫理とは何か、倫理神学とは何か。キリスト教倫理の固有性はどこにあるのか。人間の自由と責任の重要性を論じ、人間の行為を取り扱う。また人間の根本的選択と決断、良心の意味と良心的判断による人間形成に注目する。それらの決断や行為の倫理的判断の基準を探求し、法と倫理規範及び状況判断との関係を論ずる。更にキリスト教信仰に基づく自然法とキリストの法との関係や罪と悪の問題、回心による救いの可能性をキリストの福音から見るように努める。

【講義計画】 これらの内容を次の順序で講述する。  
 (1) 倫理と倫理神学 (2) 聖書における倫理の展望 (3) 歴史における倫理神学の展開 (4) キリスト教倫理の固有性 (5) 人格と責任 (6) 自由と人間の行為 (7) 根本的選択 (8) 良心と人間形成 (9) 法と規範とキリストの法 (10) 罪と回心と救い  
 これらのテーマを特に第二バチカン公会議における倫理神学の刷新を基点にして、歴史的变化と伝統的理解を見極めながら紹介する。

【評価方法】 筆記試験またはレポート提出により評価する。講義への出席も重視する。

【テキスト】 浜口吉隆著『伝統と刷新』南窓社および講義録。  
 その他参考文献を提示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
10515	基礎倫理神学Ⅱ	選必	秋学期	2	3・4	濱口 吉隆	
他の科目との関連	基礎倫理神学Ⅰと関連。					他学科履修	可

【副 題】 キリスト教的徳論

【講義内容】 徳とは何か。徳と倫理の関係から人間にとっての徳の意味を考える。元来、倫理は徳を得ることと関連しており有徳な人を理想とする。徳と習慣との関わりをギリシャ思想からキリスト教思想への展開のなかで探求する。伝統的な四元徳(枢要徳)をはじめ、キリスト教的な対神徳(信・望・愛)、真理と美を通しての神礼拝に至る宗教的な敬神徳を論じる。

【講義計画】 これらの内容を次の順序で講述する。  
 (1) 徳とは何か (2) 徳と倫理の関係 (3) ギリシャ思想の徳論からキリスト教的徳論へ (4) ギリシャ的四元徳とその影響－賢明、正義、剛毅、節制などのキリスト教的理解 (5) 謙遜 (6) 対神徳－信仰と希望と愛 (7) キリスト教生活と礼拝  
 特にギリシャ思想を背景にして中世キリスト教における理解を深め、諸徳の現代生活における意義を再検討する。

【評価方法】 筆記試験またはレポート提出により評価するが、講義への出席も重視する。

【テキスト】 講義録を配布するが、その都度参考文献を提示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
10541 10543	神学演習AⅠ (ラテン原書講読) 神学演習AⅡ (ラテン原書講読)	選必	春学期 秋学期	2	3・4	吉田 聖	
他の科目との関連	「ラテン語Ⅰ文法」「ラテン語Ⅰ講読」、「ラテン語Ⅱ文法」「ラテン語Ⅱ講読」を履修した者に限る。					他学科履修	可

- 【副題】 ラテン語で書かれた種々の文献（古代より現代まで）を選んで紹介し、解説を試みる。
- 【講義内容】 ラテン語の基礎的知識を身につけた学生が、種々の文献を講読しながらラテン教父等の思想を理解することを目指す。また、教父だけでなく、現代ラテン語（フィンランド発信のラテン語版・国際時事ニュース“Nuntii Latini”、毎日、インターネットより入手可能）についても理解できるように、新造語等についても学ぶ。
- 【講義計画】 1. 春学期は主に教父たちの文献について学ぶ。主に初期ラテン教父（キュプリアヌス他）  
2. 秋学期は“Nuntii Latini”の記事について学ぶ。  
3. 受講者の希望する文献があれば、それについても解説を試みる。
- 【評価方法】 1. 各自が分担した箇所についてレポートを作成し、所定の日に発表後、提出する。  
2. 出席状況を重視する（3分の1ルールを適用する）  
3. 時々、全員で同じ文献について解説を試み、レポートを提出する。
- 【テキスト】 プリントにして配布する。
- 【その他】 1. 辞書：『羅和辞典』研究社  
2. 文法書：『ラテン文法』サンパウロ  
3. 参考文献：『中世思想原典集成・第4巻・初期ラテン教父』平凡社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10545	神学演習B I	選必	春学期	2	3・4	蒔苗 暢夫	
他の科目との関連	神学演習B IIに続く。同一年度の履修が望ましい。					他学科履修	可

- 【副題】 トマス研究
- 【講義内容】 トマス・アクィナスの*Summa Theologiae II - I, q. 1, De Ultimo Fine Hominis*の講読。
- 【講義計画】 本年度は、トマスの生涯、著作を概観した後、『神学大全』第二部の一第1問「人間の究極目的について」を講読する。演習参加者は、あらかじめ当てられた箇所を調べ、訳し、説明する。
- 【評価方法】 演習時の発表、質疑の状況とレポートの成績を総合的に評価する。
- 【テキスト】 *Thomas Aquinas, Summa Theologiae* (Marietti版)。参考文献 トマス・アクィナス『神学大全』9、山田晶『トマス・アクィナス』（世界の名著20）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10547	神学演習B II	選必	秋学期	2	3・4	蒔苗 暢夫	
他の科目との関連	神学演習B Iより続く。同一年度の履修が望ましい。					他学科履修	可

- 【副題】 トマス研究
- 【講義内容】 トマス・アクィナスの*Summa Theologiae II - I, q. 2, De His in Quibus Hominis Beatitudo Consistit*の講読。
- 【講義計画】 春学期神学演習B Iに続き、『神学大全』第二部の一第2問題「人間の幸福のありかについて」を講読する。演習参加者は、あらかじめ当てられた箇所を調べ、訳し、説明する。
- 【評価方法】 演習時の発表、質疑の状況とレポートの成績を総合的に評価する。
- 【テキスト】 *Thomas Aquinas, Summa Theologiae* (Marietti版)。参考文献 トマス・アクィナス『神学大全』9、山田晶『トマス・アクィナス』（世界の名著20）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
10551 10553	神学演習 (C I・C II)	選必	春学期 秋学期	2	3・4	井 上 淳	
他の科目との関連	あらかじめラテン語 I 文法・講読の履修をしておくことが望ましい					他学科履修	可

- 【講義内容】 トマス・アクィナスの魂論の考察。*Summa theologiae* I, qq. 75-89および*Quaestiones disputatae de anima*を中心に、人間の魂の存在と認識活動を考察する。
- 【講義計画】 初めにトマスの思想について概説する。その後、参加者は各自自分で選んだテーマに関連したトマスのテキストについての研究発表を数回行う。そしてそれぞれの発表内容を論文としてまとめ、提出する。なお、本演習を通して卒業論文の作成をしたい場合には、少なくとも初級程度のラテン語の知識が必要である。
- 【評価方法】 研究発表と議論への積極的参加などをもとに評価する。
- 【テキスト】 トマス・アクィナス『神学大全』第六冊（創文社）  
St. Thomas Aquinas, *Questions on the Soul*, trans. James H. Robb (Milwaukee: Marquette University Press, 1984)
- 【その他】 テキストは、*Opera Omnia iussu Leonis XIII P. M. edita*（レオ版）を用いる。（*Quaestiones disputatae de anima*はTomus 24-1にある。*Summa theologiae*はPaulina版やMarietti版でもよい。）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
10555 10557	神学演習D I・D II	選必	春学期 秋学期	各2	3・4	鳥 巢 義 文	
他の科目との関連	I と II は同一年度に履修すること。					他学科履修	可

- 【副 題】 啓示と教会をめぐる研究
- 【講義内容】 本演習では「啓示」と「教会」をめぐる諸問題について、聖書や組織神学の文献を参考にしながら自ら研究していく。
- 【講義計画】 参加者は上述の主題の分野内で、テーマないし特定の神学者を選定し、文献を収集、研究し、定期的に発表して質疑に応ずる。  
春学期の最初の演習時間に自分で選定したテーマ等を紹介し助言を受けることになるので、事前に演習担当者に相談すること。  
春学期末には定期発表のまとめを提出すること。また秋学期末には一年間の発表を統合し研究レポートとして提出すること。  
卒業論文を作成する場合には、テーマ選定の折りにあらためて相談すること。
- 【評価方法】 出席、定期的発表と議論への参加状況、学期末の発表のまとめ、学年度末の研究レポートによる。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
10561	神学演習E I	選必	春学期	2	3・4	五 百 旗 頭 博 治	
他の科目との関連						他学科履修	可

- 【副 題】 トマス・アクィナス『神学綱要』第1部第2講「キリストの人間性について」(Thomas Aquinas, *Compendium Theologiae. Pars I<sup>a</sup>, Tractatus 2<sup>us</sup> de humanitate Christi*)

【講義内容】 本書はトマスが彼の忠実な秘書であったレギナルドゥス修士の求め（アウグスチヌスの「Enchiridion（神学提要）」別名「信仰・希望・愛」に相当するコンパクトなマニュアル的なものを自分のために書いて欲しいという）に応じて書き始めたもので、第一部「信仰について」に続く第二部「希望について」の途中迄のところで終わっている未完の書である。ここで取扱う「キリストの人間性について」であるがトマスは神学大全その他の著作においても同様の問題を取り上げている。しかしその観点や内容は少しずつ異なっていて同じではない。又記述のスタイルについても本書の場合は神学大全のような固定された形式（異論、反対命題、主文、異論回答）を取らず、弟子のことを考えてむしろアウグスチヌスのような自由な叙述形式で書かれているため、かえって近付き易く読み易いという面もある。内容的にはキリスト教の中心的な教えである人祖の原罪によって損われてしまった人間性がキリストの受肉と受難によって回復されてゆく様が簡潔に又見事に描かれている。

【講義計画】 キリストの人間性について  
 1. 原罪による人間性の損傷  
 2. キリストの受肉  
     (a) 人間性の回復の仕方  
     (b) キリストの心身の状態  
 3. キリストの受難と死  
 4. キリストの復活と昇天

【評価方法】 クラスの人数にもよるが、主として発表（割り当てられたテキストの箇処やテーマについて）によるが、期末にレポートを課することもある。

【テキスト】 翻訳したものをプリント配布する。ラテン語のテキスト（レオニナ版）のコピーも希望する者に配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
10563	神学演習EⅡ	選必	秋学期	2	3・4	五百旗頭博治
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 自然法から見た婚姻について（トマス・アクイナス「命題集註解」より）

【講義内容】 トマスは神学大全の第三部の途中（第90問改換の秘蹟のところ）まで書いて他界してしまった。そこでトマスの秘書の一人で信任の厚かったレギナルドゥスがその後に残された問題の記述に代る補遺（Supplementum）としてトマスの初期の作品であるロンバルドの「命題集註解」の中の当該部分で置き換えたのであった。婚姻の秘蹟の部分もその中に含まれているが、この演習においては中でも特に自然法と万民法との関連で婚姻の秘蹟を扱っている神学的哲学的部分（In 4 Sent. d.26 q.1-2; d.33 q.1-2）を取り上げて考察する。

即ち結婚はどのような意味や目的から「自然本性的」なものとするのか、又それが自然本性的であるとする一夫一婦制と一夫多妻制との間に区別を置き、前者をもって優先すべき規定と考える根拠はどこにあるのかといった問題である。ここでトマスが述べている自然法の考え方は後のスーマの記述の補いとして合わせて読まれるべきものであり、又他の所有の問題即ち共有と私有のどちらが自然本性的かという問題の解決にも参考となる箇処である。

【講義計画】 I. 命題集註解第4巻第26区分より：  
 問1. 自然本性のわざとしての婚姻について  
 問2. 秘蹟としての婚姻について  
 II. 命題集註解第4巻第33区分より：  
 問1. 多くの妻を持つことは自然本性に反することであるか？  
 問2. 多くの妻を持つことは或時代には許されてしかるべきことであったか？

【評価方法】 クラスの人数にもよるが、割り当てられたテキストの範囲やテーマについての発表によって主として評価するが、それに加えて期末にレポートを課することもある。

【テキスト】 翻訳したものをプリント配布する。ラテン語のテキストはR. BusaのIn Sent. のテキスト又はSum Theol. Supplementum q.41-42; q.65 a.1-2から得られる。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10565 10567	神学演習F I ・ F II	選必	春学期 秋学期	各2	3・4	岡崎 才蔵	
他の科目との関連	F I と F II は同一年度に履修すること。					他学科履修	可

【副題】 聖書翻訳の歴史

【講義内容】 (1)古代語訳聖書の歴史  
(2)ラテン語訳聖書の歴史  
(3)英語訳聖書の歴史  
(4)邦語訳聖書の歴史

【講義計画】 受講者にテーマを選んでもらい、レポートの提出と発表をしてもらう。

【評価方法】 各自に課されたテーマの発表に基づき評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10571 10573	神学演習G I ・ G II	選必	春学期 秋学期	各2	3・4	熊木 建郎	
他の科目との関連	科目の性質上、G I と G II を同一年度に履修のこと。					他学科履修	可

【副題】 旧約聖書神学の諸問題

【講義内容】 聖書ヘブライ語の知識を絶対的な前提とはしません。しかし、聖書神学的な研究にとって聖書の本文の解釈が最も基本的な課題であることも確かです。  
どのようなテーマを選ぶかは、各自に任せますので、旧約聖書とその世界、さらには、ヘブライ語の知識はなくても聖書神学的な研究に興味をもっている学生諸君の参加を心からお待ちしております。

【講義計画】 上述の通り、各自が旧約聖書の本文にあたるのが大切です。参加者の希望するテーマに沿って、導入的な講義と初歩的な問題点の指摘は、わたしが最初に行ないます。

【評価方法】 各自の発表と他者の研究に対する建設的、批判的協力を重視して評価する。  
なお、より深い理解のために、ヘブライ語の修得に努めることも評価に加味されます。

【テキスト】 『聖書』（新共同訳－旧約聖書統編つき）を基本的なテキストとし、ヘブライ語原文も参照する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10575 10577	神学演習H I ・ H II	選必	春学期 秋学期	各2	3・4	江川 憲	
他の科目との関連	I と II は続けて、同一年度に履修する。					他学科履修	可

【講義内容】 新約聖書学の各方法論のうち一つを選択し、それをテキストに適応しながら学んでゆく。なお、新約聖書テキストのどの箇所、どのテーマを選ぶかは、各自の自由である。

【講義計画】 各参加者は、定期的に、交代で研究発表する。

【評価方法】 研究発表とレポートを総合的に評価する。

【テキスト】 演習の中で参考文献を提示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10581 10583	神学演習J I・J II	選必	春学期 秋学期	各2	3・4	瀧口 吉隆	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 性と生命倫理

【講義内容】 本演習は学生が性と生命倫理の諸問題のなかからテーマを自由に選択し、適当な文献を読み、その内容を互いに紹介する。一定の人物による論説または一つのテーマについての諸見解の相違を知ることによって、倫理的諸問題に対する自己の批判的見解を養うように適宜にコメントする。具体的なテーマとしては、例えば性と愛、人工授精と体外受精、結婚と離婚、安楽死または尊厳死、臓器移植など。

【講義計画】 各学生は自分の選んだテーマまたは人物による参考文献を収集する。厳選した文献を読み、まとめた後、数回の発表を行う。発表に対して相互の意見を交換し討論する。発表時には必ず要点をまとめ配布する。異なるテーマについての発表により自分の取り扱わない問題または関連する問題についても学ぶことができる。

【評価方法】 定期的な発表とレポートにより評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10603	認識論	選	春学期	2	3・4	蒔苗 暢夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 我々は何を知っているのか、何を知り得るのか、何を知り得ないのか。如何にして知るか。そもそも知るとは何か。我々は本当に知っているのか。確かに知っているのか。その確実性の根拠は何処にあるのか。知っているつもりになっているだけではないのか。以上のような問いを広義の認識論の場において考察する。

【講義計画】 以下の順で進められる。  
 (1) 「認識論」の名称  
 (2) 認識論と論理学、存在論、及び心理学のかかわり  
 (3) 認識の可能性と限界  
 (4) 認識の構造  
 (5) 真理の定義

【評価方法】 授業に対する姿勢と筆記試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 随時プリント配布

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10605	自然神学 I	選	春学期	2	3・4	蒔苗 暢夫	
他の科目との関連	自然神学 II の前提。同一年の履修が望ましい。					他学科履修	可

【講義内容】 啓示神学と原理的に区別され、「自然理性による神についての根源的知的体系」とされる自然神学の可能性及びその限界を、神の存在及び本質、属性、更には創造等の問題をめぐって考察する。

【講義計画】 以下の順で進められる。  
 (1) 自然神学の名称  
 (2) 哲学及び啓示神学と自然神学

- (3)学としての自然神学の成立  
Philon, Augustinus, Thomas Aquinas  
(4)自然神学の限界  
哲学者の神と預言者の神——Descartes, Pascal——

【評価方法】 授業に対する姿勢と筆記試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 随時プリント配布。参考文献：アウグスティヌス『告白』、トマス・アクィナス『神学大全』。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
10607	自然神学Ⅱ	選	秋学期	2	3・4	蒔 苗 暢 夫	
他の科目との関連	自然神学Ⅰを前提。同一年の履修が望ましい。					他学科履修	可

【講義内容】 啓示神学と原理的に区別され、「自然理性による神についての根源的知の体系」とされる自然神学の可能性及びその限界を、神の存在及び本質、属性、更には創造等の問題をめぐって考察する。

【講義計画】 以下の順で進められる。  
(1)神の存在論証  
Anselmus, Thomas Aquinas  
(2)無神論の諸相  
(3)神は如何なるものでないか  
(4)無からの創造

【評価方法】 授業に対する姿勢と筆記試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 随時プリント配布。参考文献：アンセルムス『プロスロギオン』、トマス・アクィナス『神学大全』

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
10657	神学的人間論B	選	秋学期	2	3・4	西 脇 純	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 恵みに生かされる人間

【講義内容】 本講は伝統的に「恩恵論」と呼ばれる組織神学の一科目に相当するが、中心課題は神の恵みとの関わりにおけるキリスト教的人間理解の歴史を学ぶことにある。「恩恵」なる概念が神学の歴史全般に渡って常に重要な意味を持つのは言うまでもないが、本講で対象となる検討事項は初代教会時代における思想と教理の発展史である。確かに恩恵をめぐる問題は、とりわけ宗教改革においても中心的モチーフとなったが、それはあくまでも西方教会の思想範疇に限定される論議である。しかし、キリスト教的恩恵論にはそれとは性格の異なる東方教会の思想伝統があることも忘れてはならない。初代教会に注目するのは、まさにこの両者の思想伝統の基本的性格、すなわち、西方神学の恩恵論を決定づけたアウグスティヌスの思想および東方神学の恩恵論を特徴づけたギリシャ教父の神化思想がこの時期に確立したからである。本講では、したがって、この両思想の歴史的展開を中心に論じたい。

【講義計画】 1 恩恵論の背景となった古代末期の弁神論におけるキリスト教的悪の概念について分析する。  
2 アウグスティヌスの思想の基礎となった彼個人の人生体験、存在の秩序と人間の自由意思および神の義に関する思想を検討する。  
3 アウグスティヌスの思想を確立させ、ひいては西方教会の恩恵に関する教理決定の要因となったペラギウス論争について検討する。  
4 アウグスティヌスの論敵ペラギウスの思想の背景となったギリシャ教父の思想に注目し、その恩恵の中心概念である神化思想を明らかにしたい。

【評価方法】 定期試験において実施予定の筆記試験（参照物不可）の結果を評価の対象とする。

【テキスト】 適宜、プリントを配布。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10663	キリスト論Ⅱ	選	秋学期	2	3・4	石橋 泰助	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 現代におけるキリスト論の問題点をめぐって

【講義内容】 新約聖書におけるキリスト信仰の構造とその成立過程を現代聖書学の研究成果に基づいて考察し、現代の神学者達のキリスト論に関する見解を概観する。

【講義計画】 新約聖書と講義録を用いて講義を行なう。学期（ゼメスター）の前半はおもに新約聖書のキリスト論テキストを考察し、後半は現代の神学者の見解を考察する。前半が終了したとき質疑応答と小試験を行ない、後半が終了したときに質疑応答を行なう。

【評価方法】 筆記試験。出席も重視。

【テキスト】 聖書。講義録。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10665	秘跡各論Ⅰ	選	春学期	2	3・4	石橋 泰助	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 本講義は、カトリック教会の七つの秘跡のうち、洗礼、堅信、結婚の三つの秘跡を講じる。各秘跡についてそれぞれ歴史的考察と体系的考察を行なう。歴史的考察は、聖書、古代教父、中世、近代、現代の諸文献に表された各秘跡についての神学的理解を概観する。体系的考察は、この歴史的考察を土台として、各秘跡の本質的な意味とキリスト教生活における具体的な役割等を研究する。

【講義計画】 学期（ゼメスター）の約三分の一ずつを各秘跡に当てる。各秘跡とも、約三分の二を歴史的考察に、三分の一を体系的考察に当て、各秘跡の考察の終わりに質疑応答の時間を設ける。

【評価方法】 筆記試験。出席も重視。

【テキスト】 講義録を配布。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10677	啓示論Ⅱ	選	秋学期	2	3・4	鳥巢 義文	
他の科目との関連	聖書学、神論、キリスト論の基礎知識を前提とする。					他学科履修	可

【副題】 キリスト教的啓示と神認識の比喩なさについて

【講義内容】 キリスト教とイスラームにおける啓示理解について比較検討する。

【講義計画】 まずイスラームとは何か、どのような啓示思想、神理解を有するのかを概観する。その後、キリスト信者とムスリムとの対話において重要な諸問題の中から、キリスト理解、神理解にからむテーマを検討していく。

1 預言者ムハンマドとイスラーム

- 2 コーランの啓示と教義
- 3 コーランのキリスト理解、神理解
- 4 キリスト教的啓示の比類なさ

【評価方法】 講義、議論への参加、レポート、学期末試験などによる。

【テキスト】 小杉泰『イスラームとは何か——その宗教、社会、文化』（講談社、1994年）

【その他】 鳥巢義文「コーランのイエス像」『南山神学』20（1997年）  
 〃 「三と言うな——コーランのキリスト教的な神理解批判について」『南山神学』21（1998年）  
 〃 「公文書に見る宗教間対話とその課題——イスラームを契採として」『日本カトリック神学会誌』10（1999年）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
10701 10705	組織神学特殊講義C I・C II	選	春学期 秋学期	各2	3・4	SWANSON Paul
他の科目との関連	IとIIは同一学期に履修すること。					他学科履修可

【講義内容】 宗教学的・文献学的——特に仏教とキリスト教を比較しながら——いろいろな諸宗教に関連するテーマを取り上げる。具体的には大乘仏教の「天台小止観」を読みながら、キリスト教（特にその瞑想の伝統）と比較し、話を進める。

【講義計画】 まずは基本的には大乘仏教と大乘仏典（特に「天台仏教」）について講義をする。その後、「天台小止観」を読みながら、その内容とキリスト教との比較について話を進める。

【評価方法】 授業参加とレポート。レポートはテーマを選び、「天台小止観」とキリスト教の瞑想の伝統を比較する内容のもの。

【テキスト】 『現代語訳天台小止観』関口真大訳、大東出版社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
10725	秘跡法	選	春学期	2	3・4	枝村 茂
他の科目との関連	司牧神学					他学科履修可

【副題】 教会の聖化する任務

【講義内容】 教会法としてはただ一種類の法、すなわち秘跡に関する法規しか存在しないという見解があるくらい、秘跡法は教会法の中で主要な位置を占めている。秘跡は恩恵といった超自然的次元に関わる故に、秘跡法は単なる教会制定法ではなく独特な性格を有する特別法である。本講義では秘跡の執行者の資格・権限および義務ならびに秘跡を受ける人の法的要件、秘跡の有効性および適法性ならびにその法的効果等について講述するが、随時関連する神学上および民法上の問題にも言及する。

【講義計画】 秘跡法入門として新教会法典のうちに法文化された秘跡観の刷新およびエキュメニズムについて紹介した後、洗礼から始めて七つの秘跡について順次教会法典のテキストを分析しながら解説する。特に婚姻法については、民法と競合する離婚・再婚をめぐる問題、婚姻の無効宣言、有効化の方法ならびに婚姻訴訟について詳しく講述する。

【評価方法】 学期末試験の成績からだけでなく、授業中の質疑応答、出席状況等を勘案して総合的に評価する。

【テキスト】 カトリック新教会法典 [羅和対訳]、有斐閣

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10727	制裁・訴訟法	選	秋学期	2	3・4	枝村 茂	
他の科目との関連	司牧神学					他学科履修	可

【副題】 教会刑罰・訴訟の救済的目的

【講義内容】 教会は世俗社会と同じく訴訟法および刑法を有している。訴訟法には刑事訴訟手続き、民事訴訟手続き、行政訴訟手続の三つの訴訟手続がある。刑法は教会という社会の特性の故に、刑罰の性質、科刑および赦免の仕方において世俗社会のそれと区別される。世俗法との対比において教会の制裁および訴訟手続の特性を講述する。

【講義計画】 『カトリック新教会法典』を主教材とし、教会における制裁すなわち教会法上の犯罪および刑罰について概説した後、第2部では教会法上の訴訟、特に婚姻訴訟を中心として講述する。

【評価方法】 学期末試験の成績を主とし、授業中の質疑応答、出席状況等を勘案して総合的に評価する。

【テキスト】 カトリック新教会法典 [羅和対訳]、有斐閣

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10741	近世教会史	選	春学期	2	3・4	大森 正樹	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 14世紀から17世紀の中葉までを扱う。その中でルネッサンス・宗教改革の流れを概観し、それぞれの意味を考察する。キリスト教に関して、基本的なことをすべて説明する時間的余裕がないので、自分で勉強しておく必要がある。

【講義計画】 講義の予定

- ①キリスト教史(教会史)とは、あるいは史観について
- ②中世末期・近世初期の西欧教会
  1. 教皇庁の中央集権への試み
  2. ルネッサンス精神と教会
- ③ビザンティン末期の東方教会
  1. ヘシカズム論争、等
  2. フィレンツェ・フェッラーラ公会議
- ④教皇庁の改革
- ⑤スペイン教会の改革
- ⑥プロテスタントの勃興
  1. ルターの宗教改革
  2. ツヴィングリの宗教改革
  3. カルヴァンの宗教改革
  4. 英国の宗教改革
- ⑦トリエントの公会議とその影響

【評価方法】 出席状況と期末テストから総合的に評価する。

【テキスト】 必要なものはプリントして受講者に配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
10743	近代教会史	選	秋学期	2	3・4	大森 正樹	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 17世紀中葉から現代に至るまでの、激動する世界史の流れの中でのキリスト教の歩みを、カトリック教会を中心にして概観する。

【講義計画】 講義の予定  
 ①ジャンセニズムとクイエティズム  
 ②啓蒙主義時代の教会  
 ③フランス革命と教会  
 ④ピウス9世と第一ヴァティカン公会議  
 ⑤レオ十三世の活動  
 ⑥ピウス十二世と現代世界  
 ⑦ヨハネ二十三世と第二ヴァティカン公会議  
 ⑧現代に生きる教会と将来の方向

【評価方法】 出席状況と期末テストから総合的に評価する。

【テキスト】 必要なものはプリントして受講者に配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
10751	宗教学Ⅰ	選	春学期	2	3・4	渡 邊 学	
他の科目との関連	宗教学Ⅱの前提として、履修しておくことが望ましい。					他学科履修	可

【副 題】 現代人の宗教

【講義内容】 第一に、宗教学とは何かということについて考察し、その歴史と基本的知識について講義する。第二に、現代日本の宗教事情を出発点として、宗教の概念規定、宗教活動、宗教と社会、宗教的世界観と科学、いわゆる新宗教の実情などについてさまざまな角度から考察する。

【講義計画】 1) 宗教学とは何かⅠ：宗教の概念規定と宗教学の歴史  
 2) そのⅡ：宗教学のさまざまな分野とその特徴  
 3) そのⅢ：宗教学の今日的意義  
 4) 現代人と宗教Ⅰ：多様な宗教状況、世俗化、宗教回帰  
 5) そのⅡ：二種類の宗教、「意味」としての宗教  
 6) 現代都市の民俗信仰Ⅰ：産業化・都市化と民俗信仰  
 7) そのⅡ：現代の宗教心の陰の世界  
 8) 現代人の宗教意識Ⅰ：宗教と科学  
 9) そのⅡ：「見えない宗教」  
 10) そのⅢ：日本人の宗教意識  
 11) まとめ：宗教概念の拡散と宗教学の多様性

【評価方法】 講義の際の質疑応答や出席を考慮に入れるが、期末に行う筆記試験を最重要視する。

【テキスト】 大村英昭・西山茂編『現代人の宗教』（有斐閣、Sシリーズ）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10753	宗教学Ⅱ	選	秋学期	2	3・4	渡邊 学	
他の科目との関連	あらかじめ宗教学Ⅰを履修しておくことが望ましい。					他学科履修	可

【副題】 現代人の宗教

【講義内容】 第一に、宗教学が何かということについて考察し、その歴史と基本的知識について講義する。第二に、現代アメリカのプロテスタント諸教会の現状、また、今日の日本の新宗教ないしく霊＝術系新宗教、さらに、「カルト」と反カルトをめぐる諸問題について考察する。

【講義計画】

- 1) 宗教学とは何かⅠ：宗教の概念規定と宗教学の歴史
- 2) そのⅡ：宗教学のさまざまな分野とその特徴
- 3) 現代人の宗教：世俗化と宗教回帰現象からの現状把握
- 4) 現代の中産階級と宗教Ⅰ：プロテスタンティズムと民衆宗教運動
- 5) そのⅡ：アメリカの諸教会の現状
- 6) そのⅢ：アメリカの諸教会のディレンマ
- 7) 現代の宗教運動Ⅰ：近代化過程とく霊＝術系新宗教の位置
- 8) そのⅡ：現代におけるく霊＝術系新宗教の流行
- 9) そのⅢ：「カルト」と反カルトをめぐる諸問題
- 10) 現代宗教のゆくえ
- 11) まとめ：世俗社会における宗教のあり方をいかに研究するか

【評価方法】 講義の際の質疑応答や出席を考慮に入れるが、期末に行う筆記試験を最重要視する。

【テキスト】 大村英昭・西山茂編『現代人の宗教』（有斐閣、Sシリーズ）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10755	宗教史Ⅰ	選	春学期	2	3・4	奥山 倫明	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 宗教史入門

【講義内容】 国際化・グローバル化という時代の流れは、私たちが海外を訪れる場合のみならず国内にいる場合にすら、他者の宗教と出会う機会を増大させつつある。他者の宗教との出会いという現象そのものが、現代を宗教史における特筆すべき一時代として画しているが、そもそも宗教の歴史において異宗教間の出会いという現象はいかなる意味をもっているのだろうか。

本講義は、宗教学者J・M・キタガワの宗教史概説をもとに、人類の宗教史についての一つの捉え方を学ぶことを目指すものである。

【講義計画】

- 1、Introduction
- 2、A Vision of Unity (1)
- 3、(2)
- 4、(3)
- 5、Encounter of Peoples, Civilizations, and Religions (1)
- 6、(2)
- 7、(3)
- 8、European Colonialism (1)
- 9、(2)
- 10、(3)
- 11、The Search for A New Synthesis (1)
- 12、(2)

【評価方法】 小レポートと期末テストによる総合評価

【テキスト】 Joseph M. Kitagawa, *The Quest for Human Unity*, Fortress Press, 1990.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
10757	宗教史Ⅱ	選	秋学期	2	3・4	奥山 倫明	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 日本の諸宗教

【講義内容】 近年、日本の宗教に対する関心は、国内外で高まっている。もっとも、時事的な興味は必ずしも問題意識の継続的な深化を意味しない。今日、私たちは、私たち自身の置かれた宗教状況に批判的に対峙し、自らにつながる歴史・伝統として再認識する機会を持つように、迫られているのではないだろうか。この講義は、日本宗教史の概要を総合的に回顧することで、私たちの宗教理解を今一度検討し直すことを目指すものである。

【講義計画】

1. 日本とは何か
2. 日本宗教とは何か
3. 日本宗教の歴史的展開 (1)
4. 同 (2)
5. 崇拜の世界 (1)
6. 同 (2)
7. 日本宗教の世界観 (1)
8. 同 (2)
9. 現代日本の宗教状況 (1)
10. 同 (2)

【評価方法】 小レポート、および期末テストによる総合評価。

【テキスト】 H. Byron Earhart, *Religions of Japan*, Harper & Row, Publishers, 1984.  
 バイロン・エアハート『日本宗教の世界』朱鷺書房、1994年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
10765	典礼学総論Ⅰ	選	春学期	2	3・4	市瀬 英昭	
他の科目との関連	典礼学全体の前提科目					他学科履修	可

【副 題】 「典礼学の基礎概念」

【講義内容】 本講義は、典礼学の全体（総論Ⅱ、各論Ⅰ、Ⅱ）にとって基本となる諸概念を整理、統合するために行われる。

【講義計画】 上の目標を達成するために、以下のような講義を行う。

- 1、典礼——神と人との対話
- 2、典礼の歴史について——伝統と諸伝承
- 3、典礼祭儀の中におけることばとシンボル
- 4、典礼祭儀に見るキリスト教の人間観

【評価方法】 レポートと発表

【テキスト】 その都度指定する

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10767	典礼学総論Ⅱ	選	秋学期	2	3・4	市瀬 英昭	
他の科目との関連	典礼学各論Ⅰを続けて履修すること					他学科履修	可

【副題】 「感謝の祭儀・由来－現代－将来」

【講義内容】 教会の自己実現の場である「感謝の祭儀」の起源とその歴史的展開の研究を通して、その根底に流れるキリスト教信仰を理解する。また信仰が伝承されてゆくときに必要な形、すなわち、人を生かす言葉とシノボルの可能性を探る。

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 その都度指定する

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10775 10777	初期キリスト教思想史(教父学)Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	DUNPHY Walter	
他の科目との関連	ⅠとⅡは同一年度に履修すること。					他学科履修	可

【講義内容】 初期キリスト教思想史Ⅰにおいては、キリスト教成り立ちから8世紀までのキリスト教思想の発展を概観し、Ⅱにおいては、キリスト教がローマ帝国の国教となってゆく過程において生じたさまざまな問題を、テーマごとに論じてゆきたい。

【講義計画】 講義が中心となる。最終授業時(変更の場合あり)までにレポートを提出のこと。

【評価方法】 各自提出のレポートと出欠を重視する。

【テキスト】 随時提示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10785	霊性神学(東方キリスト教思想B)	選	秋学期	2	3・4	久松 英二	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 初代キリスト教霊性史

【講義内容】 「霊性」(Spirituality)とは、主観側から見た人間の宗教性を意味し、生活における宗教性の具体的実現の仕方とそれに関する理論を指す。本講ではキリスト教における霊性の核心を理解すべく、初代教会に始まる霊性の歴史を概観したい。その中心的主題となるのは、初期キリスト教における祈りや瞑想などの宗教的行為と、その発展の諸段階および指導理念、そして神に向かう人間の方法的努力(修徳修行)およびその経験(神秘体験)である。まず、キリスト教霊性の聖書的動機づけを確認した後、使徒時代およびその後の霊性の特徴を概観し、4世紀に始まる東方教会の修道運動と神秘思想の基礎づけを検討したい。

【講義計画】

1. 新約聖書および使徒教父における霊性
  1. 1. 共観福音書
  1. 2. ヨハネ文書
  1. 3. パウロ書簡
  1. 4. 使徒教父
2. 四世紀までの霊性
  2. 1. 殉教の理想

2. 2. 処女性の理想
2. 3. アレクサンドリア派の貢献
3. 東方初期修道性における靈性
  3. 1. エジプトの砂漠における修道靈性
  3. 2. カパドキア三教父の貢献
  3. 3. シリア、パレスティナ、シナイにおける修道運動

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 随時プリントを配布

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
10787	司牧神学（カウンセリング指導法）	選	夏期集中	2	3・4	中堀 仁四郎
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 「対人関係における自己理解」

【講義内容】 自らの人間関係のあり方に気づき、その能力を伸ばす。司牧者、教師、カウンセラー、医師、看護婦などに求められる“援助者”のあり方をさぐる。

【講義計画】 ラボラトリー方式の体験学習：グループ・ワーク、ロールプレイング、創作活動などを行い、その体験を分析し、一般化することにより対人スキルを磨くと同時に人間関係の本質を問う小講義：ここでの体験を分析し、統合することを助けるために、そのテーマに即してモデルや理論を紹介する。可能な限り全過程に出席することが求められる。

【評価方法】 体験学習実習のあとの「ふりかえり」、最終段階での自分の体験の総括をするレポートによる。出席が必須条件である。

【テキスト】 「人間関係トレーニング」ナカニシヤ出版南山短期大学人間関係科監修

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
10791 10793	聖書ヘブライ語（初級）Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	熊木 建郎
他の科目との関連	ⅠとⅡを同一年度に履修すること。					他学科履修可

【副題】 聖書ヘブライ語入門

【講義内容】 旧約聖書をヘブライ語原文で読めるようになるための初歩的な指導を行う。  
文法の説明が主たる内容となる。  
各自が正確な知識を身につけられるような講義を、いままでの教師としての経験をふまえて行いたいと願っている。

【講義計画】 上記の目的達成のために、片山徹著『旧約聖書ヘブライ語入門』を用いて、春学期、秋学期を通して、講義を行う。文字の読み方と発音符号など、春学期で修得すべきことが、どうしても秋学期の授業の前提となることは、仕方がないことであろう。

【評価方法】 出席と積極的な取組みを評価したい。「練習問題」を中心とする宿題もこの授業の大切な部分である。これらの点は、語学の授業として当然なことでしょう。

【テキスト】 片山 徹著『旧約聖書ヘブライ語入門』（こちらで準備します。)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10795 10797	聖書ヘブライ語（中級）Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	熊木 建郎	
他の科目との関連	聖書ヘブライ語（初級）を修了または同等の知識を前提とする。					他学科履修	可

【副題】 聖書ヘブライ語の文法と講読

【講義内容】 この講座は大学院の「古典学演習」（一）との共通科目であり、将来、大学院で聖書学を専攻する者は大学院に入ってから修得することもできる。しかしながら、学部生の間に旧約聖書を原文で解釈できるようになりたいと希望する学生諸君は、積極的にこの単位を取得することが期待される。

内容としては、初級文法で学んだことの復習と整理を、旧約聖書のテキストを読みながら、各自が行うことが中心となる。

尚、この中級講読を修了した学部生が大学院に進んだ場合には、「古典語学演習」（一）の中で、特別な指導を受けることによって、さらに上の力を身につけられるようになる。

【講義計画】 A. V. Hunter著Biblical Hebrew Workbookを参考にしながら、創世記22：1－19、創世記12：1－20、申命記5：1－6：9等の原文和訳を各自が準備する。

国際的に通用する、ヘブライ語文法上の英語用語を身につけられるように指導すると共に、各自が準備した訳文を取り上げつつ、文法の復習と原文講読のための技術を修得するように配慮していきたい。

【評価方法】 出席と授業への積極的な参加が重視されるのは、もちろんのことであるが、毎回ごとに宿題や自由研究を通して、どれくらい準備してくるかも評価の大切な要素となる。

【テキスト】 (1)ヘブライ語テキスト（こちらで準備します。）  
(2)片山 徹著『旧約聖書ヘブライ語入門』（初級コースで用いたもの。）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10801 10803	聖書ギリシャ語（初級）Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	岡崎 才蔵	
他の科目との関連	ⅠとⅡは続けて、同一年度に履修することが望ましい。					他学科履修	可

【講義内容】 新約聖書を原文で読むために初級ギリシャ語文法を学ぶことを目標とする。

【講義計画】 「新約聖書、ギリシャ語入門」をテキストにし、各章毎に説明を加えて、文字・発音・文法的知識の習得をめざすと共に、日本語になったギリシャ語、英語になったギリシャ語などを紹介して、語源的知識を提供する。

【評価方法】 講義への出席、練習問題への解答、筆記試験を総合して評価する。

【テキスト】 片山 徹著『新約聖書 ギリシャ語入門』キリスト教図書出版社

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10805 10807	聖書ギリシャ語（中級）Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	江川 憲	
他の科目との関連	ⅠとⅡは続けて、同一年度に履修すること。					他学科履修	可

【講義内容】 『新約聖書』ギリシャ語原文の講読

【講義計画】 本年度は春学期・秋学期とも、福音書を読んでゆく。

【評価方法】 レポート、講義への出席とその際の読解力等総合的に評価する。

【テキスト】 ギリシャ語【新約聖書】

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
10821 10825	キリスト教文学A・B	選	春学期 秋学期	各2	3・4	木下 登	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 外国語学部イスパニヤ科開講科目32635「スペイン思想史」、32637「スペイン現代思想」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11105	古代哲学史Ⅱ	選	秋学期	2	3・4	瀬口 昌久	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 哲学科開講科目11105「古代哲学史Ⅱ」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11115	中世哲学史Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	長倉 久子	
他の科目との関連	Ⅱの履修にはⅠが前提とされる。					他学科履修	可

【講義内容】 哲学科開講科目11115「中世哲学史Ⅱ」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11125	近世・現代哲学史AⅡ	選	秋学期	2	3・4	真田 郷史	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 哲学科開講科目11125「近世・現代哲学史AⅡ」を参照。

文 学 部  
哲 学 科

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11105	古代哲学史Ⅱ	必	秋学期	2	3・4	瀬口 昌久	
他の科目との関連	古代哲学史を春学期にあわせて履修することが望ましい					他学科履修	可

【副 題】 心身問題からコスモロジーへ

【講義内容】 古代哲学史のみならず、哲学の営みを西洋の社会と伝統の中に確固として位置づけたプラトンの哲学について、心身問題を基礎にしながら、国家論やコスモロジーにも関連づけて哲学の基本的課題について考察する。出席者には毎回、短いコメントを講義の終わりに提出してもらい、講義ではあるが、対話をしながら講義をすすめる。教科書はとくに定めずに、必要な資料はプリントで配布する。

【講義計画】 次のような項目を中心に講義を行なう  
 1. 『パイドン』における心身問題の核心  
 2. 『国家』における魂と国制のアナロジーの問題  
 3. 『国家』における男女平等の職制の提案について——フェミニズムとプラトン  
 4. アトミズムの問題とプラトンのコスモロジー  
 5. 文芸・芸術へのプラトンの批判

【評価方法】 毎回の講義時間に提出するレポートと学期末の筆記試験

【テキスト】 特に定めない。参考図書としては、藤澤令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11115	中世哲学史Ⅱ	必	秋学期	2	3・4	長倉 久子	
他の科目との関連	中世哲学史（人文学部）または中世哲学史Ⅰ（文学部）の履修が前提とされる。					他学科履修	可

【講義内容】 古代ギリシャにおいて誕生した西洋哲学思想は、紀元前後におけるユダヤ・キリスト教との出会いによって大きな変容を遂げた。そして、この思想の流れは、古典古代の思想が復興するルネサンス期に生じた新たな問題意識によって再び大きく変化していくのである。中世哲学と呼ばれるものは、この紀元前後からルネサンスに至るおよそ1500年にわたる期間に形成されていった思想の流れを指している。  
 本講義においては、この中世と呼ばれる期間の西欧において、いかなる問題が哲学の問題となり、いかなる仕方で西欧中世思想を形成していったかを考察する。

【講義計画】 (1) 西欧中世思想の形成  
 (2) 西欧中世盛期の思想

【評価方法】 授業への参加度、レポート、試験などから総合的に評価する。

【テキスト】 なし。参考書は随時紹介する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11125	近世・現代哲学史 AⅡ	必	秋学期	2	3・4	真田 郷史	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 近世哲学における「善と悪」をめぐる問題

【講義内容】 神と人間の存在論的關係という枠組みの中で、人間における「善と悪」の問題を、近世哲学はどのように論じてきたのか、その主要な学説を取り上げながら、概観していきたいと考えている。また、出来る限

り、思想的背景についても広く触れるよう心掛けたい。

- 【講義計画】 西洋近世哲学の三大潮流である大陸合理論・イギリス経験論・ドイツ観念論のそれぞれから、上述のテーマに関する代表的な学説を取り上げ、近世から近代へと展開するヨーロッパ精神史の流れを、大きく捉えることに留意したい。個々の哲学者についてのより詳細な学習は演習科目等の機会に委ね、ここではむしろ、哲学的に問題を考えるということの意味を、近世という時代的背景の中で汲み取って欲しい。また、時間の許す限り、近世哲学が持ち得る現代的意義についても、折に触れ、検討してみたいと思っている。
- 【評価方法】 平常の講義時に、出来るだけ多く、簡単なレポートを提出してもらい、それを毎回の講義に反映させたいと考えている。従って、評価はそうしたレポートと、学期末に提出してもらった最終レポートによって行う。
- 【テキスト】 テキストは使用しない。必要に応じて、プリント類を参考資料として配布する予定である。また、参考文献等も、適宜、講義時に紹介して行く。
- 【その他】 講義内容を単に知識として受容するのではなく、テーマに沿って「自分なりに考えてみる」という態度で受講して欲しい。講義科目ではあるが、演習科目のつもりで、毎時間、思考訓練の機会になればと考えている。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11155	論理学Ⅱ	必	秋学期	2	3・4	服部 裕幸	
他の科目との関連	論理学Ⅱの履修には論理学Ⅰの履修が前提とされる。					他学科履修	可

【副題】 1階の量理化理論

【講義内容】 本講義では、(旧カリ)論理学Ⅰ又は(新カリ)論理学をうけて、引き続き、われわれが普段何気なく用いている論理的概念を自覚的に見なおすことによって、論理というものの性質を明らかにする。具体的には量理化理論(述語論理)の初歩的部分を学ぶことになる。到達目標は、自然言語の文の量理化理論言語による記号化の仕方、統語論と意味論の相違の理解、真理の木の方法の拡張、などである。論理学Ⅰと比較すると格段に難しくなっているので予習・復習は不可欠である。小テストを随時実施する。

【講義計画】 第1回：量理化論言語  
 第2～3回：量理化論言語を用いての記号化  
 第4回：真理の木の方法の拡張(パート1)  
 第5回：真理の木の方法の拡張(パート2)  
 第6回：真理の木の方法の拡張(パート3)  
 第7回：世界の模型？－量理化論言語の論理式の解釈－  
 第8回：世界の模型を作ろう！(パート1)  
 第9回：世界の模型を作ろう！(パート2)  
 第10回：多重量化  
 第11回：証明できるといふこと＝いつでも真であるということ？－健全性と完全性－(教科書からは離れる。)  
 第12～13回：論理の大海原へ！－さらに拡張された理論の可能性－(教科書からは離れる。プリント配布。)

【評価方法】 成績は出席状況、レポート、小テスト、試験の成績、等を参考につける。

【テキスト】 ジェフリー著『形式論理学』(産業図書)  
 なお、戸田山和久著『論理学をつくる』(名古屋大学出版会)を参考書として推薦する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11641	哲学特殊講義E I	選	夏期集中	2	3・4	渡邊 二郎	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 カントとドイツ観念論、生の哲学、新カント学派、現象学、実存哲学、解釈学などにおける人間観の考察

【講義内容】 21世紀を迎えた私たちは、科学技術文明の発達した現代という時代のなかにあつて、新たに人間のあり方を考え直し、より良い未来に向けた人間の生き方の根拠を探らねばならない。  
 そうした新たな人間観を形成する際に、カントからハイデッガーにまで至る近現代のドイツ哲学における人間の捉え方を省みることは、きわめて大切である。なぜなら、そこにこそ、未来へと向けて継承されるべき最も重要な人間観の核心が突き止められ、思索しぬかれているからである。  
 それらの思想を、私たち日本人に無関係の西洋の思考と捉えることは許されない。というのも、これらの近現代ドイツ哲学の思潮こそは、最も正統的な人類共通の遺産として、今日のグローバルなものとなった地上の人間生活を支える基本的な人生観・世界観の根拠をなしているからである。それらは、東西という地域の限定を超えた、人類普遍の思想的基盤を形成しているからである。

【講義計画】 近現代ドイツ哲学を、ほんとうにわがものとしようと思えば、それらが盛られた原書をドイツ語で読まなければならない。けれども、それを、夏期集中講義の枠内で実行することは不可能である。  
 したがって、本講義においては、できるだけ平易に、しかし基本の論点を着実に押えながら、近現代ドイツ哲学における人間観を、カントから現代に至るまでの代表的な思想家に即して、展望してゆきたい。  
 カントとドイツ観念論（とりわけシェリングの人間論）、生の哲学（ショーペンハウアー、デルタイ、ニーチェ）、現象学（フッサール、シェーラー）、新カント学派（ヴァインデルバント、リッケルト、マックス・ウェーバー）、実存哲学（キルケゴール、ヤスパース、ハイデッガー、レーヴィット、ガダマー）、深層心理学（フロイト、ユング）などにおける、人間把握の問題点を、私たちの現実の日常生活と結びつけながら、生き生きとした身近な問題群として、解き明かしてゆきたい。

【評価方法】 出席を重んじたい。講義の最後の時間に、レポート方式の（つまり、あらかじめ示された出題に関して、答案用紙に、それぞれ各自の考えた内容を記述してもらうという）試験を行い、出席点とあわせて、評価をしたいと考えている。

【テキスト】 特にテキストは用いないが、参考書として、以下の拙著4冊を挙げておく。渡邊二郎著『歴史の哲学』（講談社学術文庫1999）、『芸術の哲学』（ちくま学芸文庫1998）、『構造と解釈』（ちくま学芸文庫1994）、『「ヒューマニズム」について』（ちくま学芸文庫1997）。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11645	哲学特殊講義E II	選	夏期集中	2	3・4	高橋 久一郎	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 「応用倫理学」の成立と展開

【講義内容】 倫理学における「応用倫理学」の位置と、それが登場することになった事情と展開について歴史的に振り返ると共に、現在における主要な論点、さらに今後の展開の可能性とあるべき姿について講義する。

【講義計画】

第1日	1	イントロダクション		
	2	倫理的であること（日常性）から倫理学を考えること（倫理学）へ		
	3	倫理学を考えること（倫理学）から倫理を考えること（哲学）へ		
第2日	4	応用倫理学がなぜ登場しなかったか？		
	5	生命倫理学の話題から	1	歴史と概観 自律と自己決定という枠組み
	6		2	トピックス1
	7		3	トピックス2
第3日	8	環境倫理学の話題から	1	歴史と概観 公平性と効率性という枠組み
	9		2	トピックス1
	10		3	トピックス2

第4日	11	情報倫理学の話題から	1	歴史と概観	専門職と政策論という枠組み
	12		2	トピックス1	
	13		3	トピックス2	
	14	展望	1	権利の行方	
	15		2	進化論的倫理学の可能性	

【評価方法】 受講者の講義への貢献とレポート

【テキスト】 参考書として『応用倫理学の転換』『情報倫理学』ナカニシヤ出版、『現代社会と倫理』晃洋書房

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11675	哲学史特殊講義CⅡ	選	秋学期	2	3・4	谷口 佳津宏
他の科目との関連						他学科履修 可

【副題】 フランス哲学講義

【講義内容】 哲学の概念について少し述べた後、フランス哲学の特色について解説し、デカルト、パスカル、コンディヤック、デイドロ、ドルバック、メヌ・ド・ビランらの代表的な哲学者の学説を紹介する。時間があれば、ベルクソン、サルトル、メルロ＝ポンティ、フーコー、ドゥルーズ、デリダらの現代フランス哲学についても解説する。

【講義計画】

1. 序論
2. フランス哲学の特色
3. フランス哲学史概要
4. 現代のフランス哲学

【評価方法】 レポートによる。

【テキスト】 資料を配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11681	哲学史特殊講義DⅠ	選	春学期	2	3・4	小池 英光
他の科目との関連						他学科履修 可

【副題】 功利主義研究

【講義内容】 19世紀イギリスに展開した功利主義思想を概説する。功利主義的思考方法は伝統的に存在するが、18・19世紀イギリス市民社会の進展とともにその思想的基盤となった。しかし、功利主義は「俗物的」との批判を絶えず受け続けてきた。現代においては、J.ロールズが契約説の立場からの批判を行なっている。しかし、ロールズ自身も認めているとおり、功利主義はきわめて有効な思想体系であり、過去の遺産として葬り去ることはできない。本講義では、功利主義の先行思想から初めて、ベンサム、J. S.ミルを中心に概説し、さらに功利主義批判の類型を検討し、現代功利主義の動向にも及びたい。

【講義計画】

1. 功利主義の時代背景
2. 先行思想
3. ベンサム
4. J. S.ミル
5. シジウィック
6. G. E. ムアの批判
7. J. ロールズの批判
8. 現代功利主義の動向
9. その他

【評価方法】 期末試験を中心に評価するが、出席も重視する。なお、積極的に質疑応答に参加した場合には高く評価する。

【テキスト】 テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。参考文献等は授業の中で適宜紹介する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
11685	哲学史特殊講義D II	選	秋学期	2	3・4	小池 英光	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 プラグマティズム研究

【講義内容】 プラグマティズムは功利主義からほぼ一世紀後の19世紀末からアメリカにおいて展開した思想であり、アメリカにおいて初めて創出されたアメリカの独創的な思想である。イギリスの功利主義と同じく、プラグマティズムは一時期アメリカ市民社会のイデオロギー的な地位を得た。しかし、デューイが功利主義を批判しているところからも窺えるように、功利主義とはかなり性格を異にする。その差はあるいは両国家の市民社会の性格の差によるとも考えられる。プラグマティズムは基本的に知識や倫理を行為の場面において把握しようとしている。第二次大戦後プラグマティズムは衰えたが、潜在的には今日においてもアメリカ精神の根幹を作っていると見ることもできよう。講義では、最初プラグマティズムに至るまでのアメリカ思想を略述し、そののちプラグマティズムを中心にやや詳しく検討する。

- 【講義計画】
1. アメリカ思想の特徴
  2. アメリカ思想概説 (1) 植民地時代
  3. アメリカ思想概説 (2) 独立戦争時代
  4. アメリカ思想概説 (3) ロマン主義時代
  5. プラグマティズム前史
  6. C.S. パース
  7. W. ジェイムズ
  8. J. デューイ
  9. 現代アメリカ思想の動向
  10. その他

【評価方法】 期末試験を中心に評価するが、出席も重視する。なお、積極的に質疑応答に参加した場合には高く評価する。

【テキスト】 テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。参考文献等は授業の中で適宜紹介する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
11715 11717	哲学演習A I ・ A II	選	春学期 秋学期	各2	3・4	小池 英光	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 ヒューム認識論の研究

【講義内容】 昨年度に引き続き D. ヒュームの『人間知性研究』を読む。各学期の初め2回ほど新規受講者のためにヒュームについての解説を行なう。ヒュームは18世紀イギリスの哲学者で周知のとおりイギリス古典経験論のアンカーでその鋭利な論考は今日なお立ち戻る源泉ともなっている。授業では原書を一語一句も疎かにせず、厳密に読むことを主眼に置き、その精読を通してヒュームが如何なる哲学の諸問題に取り組んでいたかを体得させることを目的とする。

【講義計画】 原書の講読では特に訳読者は決めずその都度指名する。また、レポーターを決めてヒュームに関する調査発表を随時行なってもらうとともに卒論執筆予定者から始めてゼミ全員に卒論の研究発表を行なってもらう予定である。とりわけ卒論指導には時間がかかるため演習時間が足りないときには夏期休暇中にゼミ合宿を行なって補う予定であるのでかならず参加すること。

【評価方法】 この科目は「演習」科目であるのでとりわけ出席と授業への参加が厳しく求められる。原書講読をかねるのまず正確な和訳と適切な内容把握ができていくか否かが第一条件となる。さらに、随時の調査研究と卒論研究発表を平常点として評価し、さらに期末試験と期末レポートによって採点する。

【テキスト】 David Hume, *An Enquiry Concerning Human Understanding*. Hackett, 1993.  
参考文献等は授業中に適宜指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11721	哲学演習BI	選	春学期	2	3・4	服部 裕幸	
他の科目との関連	哲学演習BIIの履修にはBIの履修が前提とされる。					他学科履修	可

【講義内容】 言語の意味や言語理解に関する言語哲学の問題を扱った古典的文献を読むことによって、言語についての哲学的探究を行う。

【講義計画】 最初の時間に現代の言語哲学の状況（小史）を述べた後、言語哲学の古典的論文ないし著書（いずれも英文）の一部を読み、議論をしながら研究していきたい。  
毎回、事前にレポーターを2名、特定質問者を2名当てて、報告してもらいます。レポーターはレジュメを作成することが要求されます。  
夏休みには授業に準ずる形で合宿を行う予定であるので、受講者はそのつもりで登録すること。（時期や場所は学生諸君と相談して決めます。）

【評価方法】 主として、期末に実施する筆記試験もしくはレポートによるが、普段の授業での活発な発言なども考慮に入れる。欠席過多ルールを厳格に適用します。レポーターに当たっていて無断で欠席するなど論外です。

【テキスト】 最初の授業の時間にコピーして配付する予定。参考文献も最初の時間に紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
11723	哲学演習BII	選	秋学期	2	3・4	服部 裕幸	
他の科目との関連	哲学演習BIの履修が前提とされる。					他学科履修	可

【講義内容】 言語の意味や言語理解に関する言語哲学の問題を扱った古典的文献を読むことによって、言語についての哲学的探究を行う。

【講義計画】 哲学演習BIの後を受けて、言語哲学の古典的論文ないし著書（いずれも英文）の一部を読み、議論をしながら研究していきたい。毎回、事前にレポーターを2名、特定質問者を2名当てて、報告してもらいます。レポーターはレジュメを作成することが要求されます。11月下旬からは3、4年生による卒業研究発表形式で授業を進める予定ですので、3年生は早めにテーマを決めて各自勉強を進めておくこと。  
春休みには山岳地域での合宿をおこなうことが期待されているので、受講者はそのつもりでいてください。（時期や場所は学生諸君と相談して決めます。）

【評価方法】 主として、期末に実施する筆記試験もしくはレポートによるが、普段の授業での活発な発言なども考慮に入れる。欠席過多ルールを厳格に適用します。レポーターに当たっていて無断で欠席するなど論外です。

【テキスト】 最初の授業の時間にコピーして配付する予定。参考文献も最初の時間に紹介する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11725 11727	哲学演習CⅠ・CⅡ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	加藤 泰史	
他の科目との関連	CⅡの履修にはCⅠの履修が前提とされる。					他学科履修	可

【副 題】 カント『純粋理性批判』を読む

【講義内容】 カントの『純粋理性批判』はヨーロッパ哲学史の中で最も重要な哲学書であると同時に、現代哲学にも多大な影響を与え続けているといえよう。現代哲学を代表する哲学者たち、たとえば、ハイデガー・ハーバマス・アーベルなどもそれぞれ独自の仕方でも『純粋理性批判』と批判的に対決することを通して自らのオリジナルな哲学を構築していったのである。この演習では「哲学文庫」版の原典とケンプ・スミスの英訳および天野貞祐の邦訳を併用して、「自我」・「基礎づけ」などのテーマに即して昨年度の続きからテキストを読解してゆくつもりである。（なお、英訳についてはコピーを用意するつもりである。）

【講義計画】

春学期

- (1) カント哲学に関する入門的解説
- (2) 担当部分の選定と発表順の決定
- (3) 図書文献の検索の仕方
- (4) 口頭発表（5月初めから開始）
- (5) レポート提出

秋学期

- (1) 担当部分の選定と発表順の決定
- (2) 口頭発表（10月初めから開始）
- (3) レポート提出

（※）演習とは、テキストに関する各自の読み方・理解を比較・検討する場である。したがって、テキストをきちんと読んできて積極的に議論に参加することを期待する。

【評価方法】 担当部分の発表内容・質疑応答・レポート・出席状況等から総合的に評価する。

【テキスト】

I. Kant “Kritik der reinen Vernunft” (PhB37a)  
天野貞祐訳『純粋理性批判』（講談社学術文庫）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11731 11733	哲学演習DⅠ・DⅡ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	谷口 佳津宏	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 現象学研究

【講義内容】 現象学の祖エドムント・フッサルの晩年の代表作『デカルトの省察』をフランス語で読みながら、哲学テキストの読解における悲哀と喜びを体感する。

【講義計画】 一人一文を原則に毎回各自に訳読してもらう予定なので事前の予習が必要不可欠である。

【評価方法】 平常点による。

【テキスト】 Edmund Husserl, Méditations cartésiennes, J. Vrin, 1992. （学内の紀伊國屋書店で各自購入しておくこと）

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11735	哲学演習E I	選	春学期	2	3・4	金子 善彦	
他の科目との関連	哲学演習E II とあわせて履修することが望ましい					他学科履修	可

【副 題】 「知識」の哲学

【講義内容】 本年度は「知識」の問題に挑戦します。私たちはよく、「そんなことは知っているよ」とか、「君には医学の基礎知識が欠けている」とか、「知識詰め込み型の教育はよくない」という言い方を耳にしますが、私たちにとって「知識」や「知る」ということはそもそも何を意味するのでしょうか。それは単なる「思い込み」や「信念」とどう違うのでしょうか。このようなことは普段気にとめることすらありませんが、ここで少し立ち止まって、哲学的な考察を加えてみるのがこの演習の目的です。

【講義計画】 「知識」のあり方を哲学的に問題化し、本格的な考察を加えた最初の著作、知識論の古典とも言うべきプラトンの『テアイテトス』をテキストとしてとり上げ、議論の出発点とします。その後、あるいはそれと並行して、テーマ的に関連する他の哲学者の論文を読み、議論を深めます。テキスト・論文の講読は毎回担当者を決め、その時間はその人の責任で演習が進められます。

【評価方法】 教室での普段の態度を重視します。具体的には、積極的な発言、担当時のプレゼンテーションなどです。担当に当たってないときでも常に発言を求め、評価の対象にするので気を抜かないこと。  
学期末にはレポートを課します。  
当然、出席してもらうことが大前提です。なお、欠席時数が授業予定総時数の3分の1を超えた場合、「欠席過多(S)」にします。

【テキスト】 プラトン『テアイテトス』(岩波文庫)。春学期の初めに教科書売り場(または一般書店)で、最初の時間までに購入すること。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11737	哲学演習E II	選	秋学期	2	3・4	金子 善彦	
他の科目との関連	哲学演習E I とあわせて履修することが望ましい					他学科履修	可

【副 題】 「知識」の哲学(応用編)

【講義内容】 基本的な方針は「哲学演習E I」と同じですが(E Iを参照)、応用的な問題を扱います。

【講義計画】 これまで議論した基本的な問題をふまえて、基本テキストの講読を続けるとともに、関連する哲学者の論文を読み、議論をさらに深めます。春学期同様、テキスト・論文の講読は毎回担当者を決め、その時間はその人の責任で演習が進められます。

【評価方法】 教室での普段の態度を重視します。具体的には、積極的な発言、担当時のプレゼンテーションなどです。担当に当たってないときでも常に発言を求め、評価の対象にするので気を抜かないこと。  
学期末にはレポートを課します。  
当然、出席してもらうことが大前提です。なお、欠席時数が授業予定総時数の3分の1を超えた場合、「欠席過多(S)」にします。

【テキスト】 プラトン『テアイテトス』(岩波文庫)。教科書売り場(または一般書店)で必ず購入すること。

文 学 部

人類学科

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
12541	人類学演習 I A (考古学)	選必	通年	4	3	伊藤 秋男	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 ユーラシアの考古学

【講義内容】 考古学全時代にかかわる問題について、受講生各自が調査研究し、発表資料の作成、口頭発表、討論、レポート作成を通して、考古学研究と論文作成のための初歩的な方法論を学ぶ。とくに考古学の研究に必要なことは、生活に根ざした経験則を身につけることである。この目的に役立つ演習にしたい。

【講義計画】 (1) 受講生の課題に対する興味が、どこにあるかを開講時に質問する。  
 (2) 課題設定に対する助言。発表順の決定。  
 (3) 発表資料の作成と口頭発表。  
 (4) 質疑応答と発表成果の評価。  
 (5) レポートの作成と提出。  
 ほば上のような順序で演習は進行する。受講生の人数にも関係するが、少なくとも3回は発表を義務づけたい。

【評価方法】 発表資料の作成方法、発表内容と態度、レポートなどから総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
12543	人類学演習 I B (考古学)	選必	通年	4	3	重松 和男	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 考古学の諸様相

【講義計画】 各自のテーマでの発表と討議が中心である。2年生は、教員と相談しながら、自分のテーマを決めるが、考古学的方法からどのようなアプローチが可能であるかを考えることが第一である。そのために読んだ本の発表から始め、2回目からはテーマに沿って、様々な文献に当たって発表する。3年生はすでに決まっている自分のテーマを卒論作成に向かって調べて発表する。ゼミの終了レポートを課すが、3年生は卒論の最初の下敷きにできるよう努力させる。

発表に対する質問は、指名して強制的に当てる。これは質問と討議を通して互いに切磋琢磨し、より広く、深い関心を持つことを期待するからである。したがって、出欠席は極めて厳しくチェックし、無断欠席を許さない。遅刻も同様である。自分に関心がないテーマの発表は聞きたくないといった学生は履修しないよう望む。

【評価方法】 試験結果と平常の発表・発言の内容を合わせて判定する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
12545	人類学演習 I C (考古学)	選必	通年	4	3	早川 正一	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 「機能や役割からみた考古学」

【講義内容】 考古学の基本的そして伝統的な方法が、発見された遺跡や遺物に対する型式学と層位学に依存している事は明白な事実である。そのうえで、機能や役割の問題を考察するのが目標であり、欧米の文献や関連する日本の研究者の動向をもとに適切なテーマを選定させ、各人の勉学成果を発表させて検討を加える。

【講義計画】 年間のスケジュールの中で、ゼミ生は当初、担当者の発表の状況をよく観察し、その成果を聴取する事から始める。次の段階では、担当者指導の共同発表を順次にさせる。最終段階では、上記の経験をもとにして、ゼミ生の各人が個別にテーマに基づく研究の成果を発表し、その都度、担当者が補助的なコメントを加え、全員で討論して各人の研究成果を次のステップにしてゆく。

【評価方法】 各人の勉学成果である発表のコピー資料、他人の発表に対するコメントの状況などを総合的に評価する。もちろん、無責任な欠席は許されない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
12547	人類学演習 I D (民族学)	選必	通年	4	3	森部 一	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 「タイというアイデンティティ」の諸相

【講義内容】 20世紀に入ってからタイの国家形成の要として多くのタイ政府によって奨励・発展させられてきた「タイというアイデンティティ」の特徴について考えてみたい。

具体的には、下記の講義計画に記されている題目に関連する英語で書かれた文献の中から適宜取り上げ、ゼミ生全員で分担して読み、検討し、議論する。

- 【講義計画】
1. イントロダクション
  2. シャム人のアイデンティティの危機
  3. 占星術の伝統におけるタイ人のアイデンティティ
  4. 「タイの村落」とは何か。
  5. タイにおけるアイデンティティと権威
  6. 国家についての“うわさ、きたない中傷、そして安全”  
——タイにおけるマス・メディアとナショナル・アイデンティティ

参考文献：National Identity and Its Defenders——Thailand, 1939-1989(edited by Craig J. Reynolds)  
Monash Papers on Southeast Asia-No.25 1991年

【評価方法】 定期試験・発表内容・質疑応答・出席などから総合的に評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
12551	人類学演習 I E (民族学)	選必	通年	4	3	KNECHT Peter	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 「霊力」とは何か：呪術・憑物・シャーマン

【講義内容】 科学の成果がますます目ぼしく、「宗教離れ」が進んでいると言われる中で、その傾向の逆流でもあるように、石や妙薬などの神秘力又は「シャーマンの力」の信仰は相変わらず強い。特定の宗教とは異った「霊力」が求められているようだが、この「霊力」は何だろうかを探ろうとする。

【講義計画】 先ずは、「霊力」が出現すると思われる具体的事例研究を基に、その分析と宗教人類学の理論的な捉え方の可能性を吟味する。

【評価方法】 演習活動に積極的に協力する態度を要求し、発表とレポートを評価の基準にする。

【テキスト】 日本語と英語の文献を使うが、順次に紹介し、割り当てる。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
12553	人類学演習 I F (民族学)	選必	通年	4	3	坂井 信三	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 「イスラーム文明の社会人類学的研究」

【講義内容】 イスラームは、地理的にはインドネシアからセネガルまで、ユーラシア・アフリカにまたがる広大な地域に広がり、様々な民族を含んでいる。また歴史的に言えば、それは西欧キリスト教文明、インド文明、中国文明とならぶ大文明を形成してきた。特に今日、世界が西欧の文明とイスラーム文明に二分された感のある中で、この文明の社会・文化・歴史について、ある程度ふみこんだ知識をもつことは不可欠であろう。

【講義計画】 春学期は共通のテキストを利用してイスラーム文明の歴史・文化・社会について一般的な知識を身につけ、秋学期は各自の興味にもとづいて、個別の問題について研究発表をしてもらう。

【評価方法】 ゼミでの発表をさらに深化させたレポートを提出してもらう。

【テキスト】 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
12555	人類学演習 I G (民族学)	選必	通年	4	3	吉田 竹也	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 「東南アジア島嶼部の人類学的研究」

【講義内容】 東南アジア島嶼部は、それぞれユニークな文化を育んだ諸社会が、互いの間に古くから海洋交易を軸としたネットワークを取り結んでいた地域であり、個々の社会の独自性をそうしたネットワークによる共通性との関連で捉える視点が必要になる。授業では、この地域の諸社会に関する民族誌的研究や歴史研究を検討し、全体で議論していく。

【講義計画】 各自で研究テーマをたて、それに沿った発表を行い、全体で討議をしていく。3年生は、2年生の時点で絞り込んだ自身のテーマに沿って日本語および外国語の文献を読み、卒業論文も視野に入れた本格的な研究発表をおこなう。各自がそれぞれ自分の研究テーマを深めていくとともに、仲間の発表に刺激を受けて自身の視野を広めていける、そうした雰囲気のあるゼミにしたい。

【評価方法】 発表内容、ディスカッションでの発言内容、レポートなどを総合的に判断して評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
12561	人類学演習 II A (考古学)	選必	通年	4	4	伊藤 秋男	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 ユーラシアの考古学

【講義内容】 考古学全時代にかかわる問題について、各自が文献の渉猟と現地踏査などによって調査研究し、発表資料の作成、口頭発表、討論、そしてその成果をレポートとしてまとめる作業を通して、卒業論文テーマの設定とその作成についての助言と指導を行う。

【講義計画】 (1) 卒業論文作成の手順の詳説

- (2) 卒業論文設定についての懇談と助言
- (3) 文献渉獵の実態と手法
- (4) 参考文献の引き方と極意
- (5) 発表資料の作成と口頭発表
- (6) 質疑応答と発表成果の評価
- (7) レポートの作成と提出

【評価方法】 発表資料の完成度、発表内容と態度、レポートの出来ばえなどから総合的に評価。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
12563	人類学演習ⅡB (考古学)	選必	通年	4	4	重松 和男	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 演習Ⅰを受けての4年生の演習であるから、各自のテーマ(卒論)に関する発表とその討議が中心になる。口頭発表も単に話すだけではなく、できれば発表の全文をプリントするといった形で、文書による研究発表の基礎を作ると同時に、提示資料(図・写真・原典)の扱いをも学ぶ。

【評価方法】 試験と途中で提出させるレポート(発表内容)を合わせて評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
12565	人類学演習ⅡC (考古学)	選必	通年	4	4	早川 正一	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 「機能や役割からみた考古学をどのように発展させるか」

【講義内容】 すでに修得した演習Ⅰにおける勉学成果を基盤として、各人ともその成果が研究の方向として適切であったかどうか。更には、どのようにして各人が研究の目標に向かって修正を加えてゆくか。そのためには、どのような文献や実物資料を検討し、どのように分析してゆかかを考えさせ、そこから出てきた成果をゼミナールの担当者とのディスカッションし、まとめて資料を作成して、全員に対して発表し、各人の意見を聞く。  
最終的に、そうした発表の成果を論文の土台とし、卒業論文を結実させる。

【講義計画】 このゼミナールは、まず、演習Ⅰで培った研究成果の再検討から始める。全員が修正を加えて要点を発表すること。その終了後、ゼミナール担当者が疑問点や問題点を指摘し、これに対して、各人の見解を聞き、討論する。以上が前期の計画である。  
上記の中から出てきた課題を各人とも夏休みのうちに点検を加え、後期の開始とともに順次、成果を発表し、ディスカッションの材料とする。そこで出てきた問題をあらためて再検討し、再び全員の前で発表させる。以上が後期の計画である。

【評価方法】 上記の授業内容および授業計画を通して、各人の勉学態度・研究成果・発表内容などを総合評価する。したがって、不必要かつ無責任な欠席などあり得ない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
12567	人類学演習ⅡD (民族学)	選必	通年	4	4	森部 一	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 受講生一人一人が研究テーマを選び、それに関する文献研究の成果を発表しあい、質疑応答を行う。

【評価方法】 定期試験・発表内容・質疑応答・出席などから総合的に評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
12571	人類学演習ⅡE (民族学)	選必	通年	4	4	KNECHT Peter	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 履修生の卒業論文作成を目指して、課題研究を行う。

【講義内容】 履修生各自の研究課題に合わせて、文献研究、資料蒐集と執筆作業を指導する。

【講義計画】 卒論研究の計画書を各自に用意してもらった上、先ず必要と思われる文献の蒐集と検索をもらう。基礎的と判断される文献を中心に、その内容を発表してもらう。これらの諸作業を通して、研究テーマを絞り、問題意識を高めめる。卒論の作成技術を指導する。

【評価方法】 常の研究態度と卒業論文の一貫性、問題の把握、資料の分析力と論証の展開の仕方などを総合的に評価する。

【テキスト】 特にない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
12573	人類学演習ⅡF (民族学)	選必	通年	4	4	坂井 信三	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 登録者各自が自分の研究テーマを選定してそれについての研究成果を発表し、出席者と指導教員との間での討論をとおして、さらに研さんを深めていく。問題を把握し、方法を設定し、成果を検討しさらに問題把握を的確にさせていくという循環をとおして、問題解決方法を身につける。

【講義計画】 登録者は、自分のテーマに関して、数次にわたる研究発表をする。その都度、出席者や指導教員による批判を受けとめて、次なる研究へくり込んでいくことが要請される。

【評価方法】 年度末のレポートによって評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
12575	人類学演習ⅡG (民族学)	選必	通年	4	4	吉田 竹也	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 各自の卒業論文作成に向けた研究発表を行い、討論していく。

【講義計画】 履修希望者は、あらかじめ指定された期日までに、自身の研究テーマについて、(1)タイトル(仮題)、(2)目次、(3)議論の大きな見通し、(4)主要参考文献のリスト、を作成し、担当教員に提出しておく。4月の最初の授業の際に発表の順番を決め、あとは各自のペースで論文作成にとりかかる。なお必要であれば、授業時間のほかに随時研究指導する時間を設ける。できるだけ授業に参加し、仲間の発表やそれへのコメントを自身の研究の深化に役立ててほしい。

【評価方法】 発表内容、ディスカッションでの発言内容、レポートなどを総合的に判断して評価する。

文 学 部  
教育学科

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
13111 13112	心理学Ⅰ [再]	必	春学期	各2	2	早矢仕 彩子 浦上 昌則	
他の科目 との関連						他学科 履 修	不可

【講義内容】 共通教育科目 07281・07282「心理学A」を参照。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
13115 13116	心理学Ⅱ [再]	必	秋学期	各2	2	早矢仕 彩子 中村 和彦	
他の科目 との関連						他学科 履 修	不可

【講義内容】 共通教育科目 07286・07287「心理学B」を参照。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
13151	原典講読A	必	春学期	2	3	三 上 茂	
他の科目 との関連						他学科 履 修	不可

【講義内容】 キリスト教的教育に関する文献を講読し、教育を世界観や人間観との関連において考える。

【講義計画】 各自の訳読の後に適宜解説を加えながら進める。

【評価方法】 出席、訳読、期末試験によって評価する。

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
13155	原典講読B	必	秋学期	2	3	三 上 茂	
他の科目 との関連						他学科 履 修	不可

【講義内容】 キリスト教的教育に関する文献を講読し、教育を世界観や人間観との関連において考える。

【講義計画】 各自の訳読の後に適宜解説を加えながら進める。

【評価方法】 出席、訳読、期末試験によって評価する。

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
13156	原典講読B	必	秋学期	2	3	梅垣 弘	
他の科目との関連						他学科履修	不可

- 【講義内容】 子どもの教育・福祉・精神保健などに関連したエッセイを訳読する。そうした学習の中で、今日的な子どもたちの心理や問題点について理解を深め、その関わり方について検討を試みる。
- 【講義計画】 各自の訳読の後に適宜解説を加えながら進める。
- 【評価方法】 出席状況や訳読成績、それにレポートなどによって総合的に評価する。
- 【テキスト】 初回の授業時に提示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
13251 13261 13271 13281	教育演習Ⅰ1・Ⅱ1・Ⅲ1・Ⅳ1	必	春学期 秋学期	各2	3・4	三上 茂	
他の科目との関連						他学科履修	不可

- 【講義内容】 哲学・人間学・教育学の文献の講読演習を通して現代世界の問題を人間や教育の視点から批判的に考察する。毎月の最後の週は各人の卒論に向けての文献研究の発表に当てられる。
- 【講義計画】 文献の講読を発表者を決めて順番に行い、受講者全員が参加して討論を行う。発表者はレジユメを用意し、質疑に対して応答できる準備をしておくことが要求される。発表者以外の受講者ももちろん質問やコメントを要求される。出席が厳しく要求される。
- 【評価方法】 毎回の発表、発言、レポート、合宿時の発表、レジユメ、出席状況等を総合的に判断して評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
13252 13272	教育演習Ⅰ2・Ⅲ2	必	春学期	2	3・4	田子 健	
他の科目との関連						他学科履修	

- 【副題】 なし
- 【講義内容】 現代の教育政策・制度および教育行政を主たる対象とする。
- 【講義計画】 これらは、いずれもよりよい教育の実現をめざす社会的な方法であるので、教育をめぐる問題は、すべてこのゼミの課題となろう。したがって、参加者の研究関心に即した運営をしたい。
- 【評価方法】 レポートによる。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
13253 13263 13273 13283	教育演習 I 3・II 3・III 3・IV 3	必	春学期 秋学期	各2	3・4	加藤 隆雄
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 教育社会学研究

【講義内容】 教育社会学の文献の講読と発表によって、社会学的知識・思考法を修得し、自らもオリジナルな社会学的研究を行う能力を養成することを目標とする。その過程において、①アカデミックな文献を読みこなす読解力、②読んだ文献の内容と論点を把握しレジメにまとめる能力、③文献への疑問点を明確にし問題を指摘する批判力、④他人の発表を聞いて自分の意見を述べ議論を行う討議能力といった一般的な能力の習得も目指す。また、希望者にはより高度な文献の講読、量的・質的調査法の指導を別個に行う。

【講義計画】

1. 欧米・日本の教育社会学における代表的な文献を講読する
2. 教育社会学の先端的なテーマ・方法について文献講読を通して理解を深める
3. 参加者自身がテーマを設定し、そのテーマにふさわしい文献を選択して発表する
4. 自ら設定したテーマに基づき研究計画を設計する
5. 研究成果を発表する

【評価方法】 毎回の発表、レポートに平常点を加味する。

【テキスト】 随時指定。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
13254 13264	教育演習 I 4・II 4	必	春学期 秋学期	各2	3	CALMANO Michael
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 演習の導入として教員は「比較教育学」や「教育課程論」に関する理論的な考察を行うが、演習の主な内容は履修者の自由な発表から成り立つ。発表は広い意味での「教育」に関連があればよいが、“formal education”（公教育）をテーマとする発表が普通大半を占めている。  
なお、発表の準備に当たって、(次年度の)卒業論文のテーマ設定を目指して取り組んだ方が望ましい。

【講義計画】 発表当番となった学生は授業の3日前までにレジメを教員に提出する。授業は、発表を基にして、討論の形で行うが、必要に応じて教員はテーマの発展につながる補足説明をする。そのため実証的研究も紹介するが、特に価値問題を注目する。

【評価方法】 授業への出席、先輩・同輩の発表への積極的な反応と発言、及び演習に貢献する発表を合格の必要条件とする。筆記試験は行わないが、発表の準備（レジメ等）は、授業参加と共に、成績を決める基準とする。

【テキスト】 共通のテキストは使わない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
13255 13265 13275 13285	教育演習 I5・II5・III5・IV5	必	春学期 秋学期	各2	3・4	石田 裕久	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 教育心理学研究

【講義内容】 教育心理学研究の具体的方法についての理解を深める。そのために内外の研究論文を選んで発表した後、各自の問題関心に応じて研究計画の立案、データ収集、結果の分析、報告書の作成までを行う。

【講義計画】 年間を通じた授業計画は以下の通りである。  
 (1) 4年次生による前年度の研究報告の発表(4月)  
 (2) 各自が関心をもった研究論文紹介(5～6月)  
 (3) 研究計画の立案・発表(7月)  
 (4) 研究計画の確定(夏合宿)  
 (5) 調査・実験の実施(9～10月)  
 (6) 結果の分析(11月)  
 (7) 報告書の作成(12～1月)  
 なお、調査・実験の実施にあわせて、データ解析のための実習を行う。

【評価方法】 討論など授業への参加度ならびに提出された研究報告書により評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
13256 13266 13276 13286	教育演習 I6・II6・III6・IV6	必	春学期 秋学期	各2	3・4	神谷 俊次	
他の科目との関連	心理教育統計学 I、II 及び調査・測定法 I、II を履修すること。					他学科履修	不可

【講義内容】 心理学に関する文献を専門雑誌から選び、発表・討論することにより、論文の読解力を養成する。さらに、各論文の問題点や各自の問題意識に基づき、テーマを設定し、そのテーマに対する適切な心理学的アプローチの仕方について考えていく。

【講義計画】 (1) 受講生が各自の関心テーマに基づいて関連する文献を自ら収集し、発表する形で授業を進める。  
 (2) 他の受講生の発表に対しても、積極的な意見表明を求める。  
 (3) テーマがある程度決まった後に、仮説検証可能な研究計画を立案する。  
 (4) 研究計画に基づいて、観察法、実験法、調査法等により実際にデータを収集、分析・考察する。  
 (5) 報告書を作成した後、研究発表を実施する。

【評価方法】 文献発表、出席、授業への参加度、最終レポートにより評価する。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
13257 13267 13277 13287	教育演習Ⅰ7・Ⅱ7・Ⅲ7・Ⅳ7	必	春学期 秋学期	各2	3・4	浦上 昌則	
他の科目 との関連						他学科 履 修	不可

【講義内容】 自分が疑問に思うことを煮詰め、研究という形に翻訳し、結果を得てそれを報告するという一連のプロセスを体験する。その過程を通して、各自の問題意識をさらに発展させ、また心理学的研究についての理解を深めることが目的である。受講生は、心理教育統計学Ⅰ、Ⅱ、調査・測定法Ⅰ、Ⅱを合わせて履修すること。

【講義計画】 春学期 各自の持つ問題意識を深め、明確化する。

1. 各自の持っている問題意識の発表
2. 問題意識と関連する論文の読解

秋学期 問題意識について研究し、報告する。

1. 研究計画の立案
2. 調査の実施
3. 報告書の作成

【評価方法】 春学期とも、授業への関与度をもって評価する。ただし秋学期については、提出された報告書も評価の対象とする。

【テキスト】 特に用いない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
13258 13268 13278 13288	教育演習Ⅰ8・Ⅱ8・Ⅲ8・Ⅳ8	必	春学期 秋学期	各2	3・4	長谷川 雅雄	
他の科目 との関連						他学科 履 修	不可

【講義内容】 本演習は、臨床心理学領域におけるさまざまな事象を学ぶことによって、人間の「こころ」の表層および深層を、一面的にではなく多面的な視点から深く探求していくことと、「心理的援助」の考え方について幅広く理解していくことを目指している。表層にしろ深層にしろ、「こころ」は静的なものではなく動的なものであり、その動きは、容易に捉えがたい複雑さに満ちている。ある人の「こころ」を理解していくためには、他の重要な人物との過去から現在に至る「関係」あるいは「関係の動き」のなかに理解していくとする力動的な視点がきわめて大切となるが、ここにも重点をおきながら演習を進めていく。

具体的には、心理療法、精神病理学、精神分析学、深層心理学、パトグラフィーなどに関する著書や論文をテキストとし、講読、討論を行う。その際、発表者は単にテキストの要旨だけでなく、質問や関心を抱いた事項について、自ら調べたり考えたりしたことを書き添えた（これを必ず守ること！）レジュメを作成し、このコピーを全員に配布して発表する。全体討論の進行は、教師ではなく進行役（これも受講生が順次担当する）が務めるが、議論が深まっていくためには、当然の事ながら何よりも全員が下調べを十分にし、自らの考えや疑問点などを前もって整理しておくことが前提条件となる。

【講義計画】 春学期および秋学期の前半頃までは上記のように、テキストを用いた発表・討論を行うが、それ以降は、4年次生の「卒論・中間発表」と3年次生の「自由発表」と切り替え、同じく全体討論形式で進めていく。なお、適当な時期に、模擬体験として、セラピスト役とクライアント役に分かれて架空の面接をする「ロール・プレイ」を予定している。また、4月と9月には合宿を行う。

【評価方法】 討論での姿勢や発表内容、提出レポートなどから総合的に評価する。また欠席も重視する。

【テキスト】 ・中井久夫『分裂病と人類』東京大学出版会

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
13259 13269	教育演習 I 9・II 9	必	春学期 秋学期	各2	3	松原 眞志夫
他の科目との関連						他学科履修

【副題】 学校教育の研究

【講義内容】 学校教育においては、義務教育、中等教育、高等教育、障害児教育、環境教育、道徳教育、国際化・情報化、学校経営、学級経営等の分野にそれぞれの課題がある。また、いじめ、不登校、非行等の現象面や、学校教育の改革、教員に係る諸問題など、研究すべきことが多い。  
本演習では、学校教育のもつさまざまな課題の中から、各自の関心の深いものについて、その原理、実態、課題、解決の方法等について探求する。

【講義計画】

- 1 論文、報告等の探索
- 2 各自の課題の設定
- 3 研究計画の立案、決定
- 4 研究テーマの調査、深化
- 5 研究報告書の作成

文献研究、討論に加え、研究テーマに応じて、外部調査、視察等を組み入れる予定である。

【評価方法】 授業への参加状況、研究報告書により評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
13260 13270	教育演習 I 10・II 10	必	春学期 秋学期	各2	3	梅垣 弘
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 学校における児童生徒の精神保健的な問題について、文献研究を中心に検討を深める。

【講義計画】 研究テーマとしては、具体的に次のようなことが考えられる。

1. 学校ストレスと学校不適応。
2. 現代っ子による「いじめ」の実態とその学校対応。
3. 不登校や高校中退の増加要因とその対策。
4. 保健室頻回利用児童生徒の実態とその問題点。
5. 少年非行の粗暴化・犯罪化など今日的な問題点とその地域連携支援の在り方。
6. 授業崩壊・授業不成立の問題とその学校対応策。
7. 生徒指導とカウンセリング・マインドをめぐって。
8. 思春期の子どもの受験戦争と進路選択の問題。
9. 帰国子女・外国人子女教育の現状と問題点、など。

【評価方法】 研究の目的や方法の設定の仕方や研究への取り組み方など総合的に評価する。

【テキスト】 とくに定めない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
13262 13282	教育演習 II 2・IV 2	必	秋学期	2	3・4	田子 健
他の科目との関連						他学科履修

【副題】 なし

- 【講義内容】** 現代の教育政策・制度および教育行政を主たる対象とする。
- 【講義計画】** これらは、いずれもよりよい教育の実現をめざす社会的な方法であるので、教育をめぐる問題は、すべてこのゼミの課題となろう。したがって、参加者の研究関心に即した運営をしたい。春学期に引き続き、さらに高い水準の理解をめざしたい。
- 【評価方法】** レポートによる。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
13274 13284	教育演習Ⅲ4・Ⅳ4	必	春学期 秋学期	各2	4	CALMANO Michael	
他の科目との関連						他学科履修	不可

- 【講義内容】** 演習の導入として教員は「比較教育学」や「教育課程論」に関する理論的な考察を行うが、演習の主な内容は履修者の自由な発表から成り立つ。発表は広い意味での「教育」に関連があればよいが、“formal education”（公教育）をテーマとする発表が普通大半を占めている。  
なお、発表の準備に当たって、卒業論文の作成を目指して取り組んだ方が望ましい。
- 【講義計画】** 発表当番となった学生は授業の3日前までにはレジュメを教員に提出する。授業は、発表を基にして、討論の形で行うが、必要に応じて教員はテーマの発展につながる補足説明をする。そのため実証的研究も紹介するが、特に価値問題を注目する。
- 【評価方法】** 授業への出席、後輩・同輩の発表への積極的な反応と発言、及び演習に貢献する発表を合格の必要条件とする。筆記試験は行わないが、発表の準備（レジュメ等）は、授業参加と共に、成績を決める基準とする。
- 【テキスト】** 共通のテキストは使わない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
13615	教育学特殊講義	選	秋学期	2	3・4	丸山 雅夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

- 【講義内容】** 我が国を中心として、「非行」と「非行少年」に対する法制度について詳述する。特定の法律の履修を前提としないから、他学科の学生も歓迎する。  
毎回、簡単なレジュメを配布する。
- 【講義計画】** 以下の内容を扱う。  
  1. 非行とは何か（少年法における非行概念）
  2. 非行はなぜ起こるのか（非行原因論）
  3. 我が国における非行の特色（主要諸国との比較）
  4. 少年法の性格（福祉モデルと正義モデル）
  5. 少年法制の発展の概要
  6. 非行少年の発見過程
  7. 家庭裁判所の受理
  8. 調査過程
  9. 審判の意義・関係者・手続
  10. 終局決定・処分の種類
  11. 処分（処遇）の実際
  12. 少年法の改正問題
  13. 少年法の将来（展望）
- 【評価方法】** 受講者の数により、定期試験（1回）またはレポートにより評価する。
- 【テキスト】** 菊田幸一『少年法概説〔第3版〕』（有斐閣、2000年）。六法（少年法部分のコピーでよい）を必ず持参する

こと。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
13625	教育哲学特殊講義	選	春学期	2	3・4	三 上 茂
他の科目との関連						他学科履修可

- 【講義内容】 教育哲学特殊講義：キリスト教的教育論
- 【講義計画】 キリスト教の人間観・子ども観、人間の目的と教育の目的
- 【評価方法】 出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。
- 【テキスト】 特に用いない。講義時に参考文献を指示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
13635	教育社会学特殊講義	選	春学期	2	3・4	加藤 隆雄
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 青年文化の社会学

【講義内容】 アメリカ・イギリス・日本における青年文化を、文化社会学あるいはカルチュラル・スタディーズ的観点から取り上げ、その歴史の変遷をたどることで、社会構造の変化との関連について明らかにする。「青年」といわれる集団がいかに生まれてきたかについて考えることは、同時に、青年集団固有の文化（サブカルチャー）の生成を捉えることでもある。1950年以降の青年文化について、視聴覚教材を用いてその具体的な相貌について体験し、青年文化が生み出したテキストから「青年」というものの成り立ちについて考察し、テクノロジーの発展・経済構造・市場の成立といった要因との連関を認識していくことを目的とする。

- 【講義計画】
1. 「子ども」の誕生・「青年」の出現
  2. 文化社会学の理論(1)マルクス主義の諸理論
  3. 文化社会学の理論(2)ベンヤミンとアドルノ
  4. 文化社会学の理論(3)ウィリアムズとホガート
  5. 文化社会学の理論(4)ベルとポストモダン理論
  6. 文化社会学の理論(5)カルチュラル・スタディーズ
  7. 青年と青年文化の現代史——事例研究——(1)1950年代
  8. 青年と青年文化の現代史——事例研究——(2)1960年代①
  9. 青年と青年文化の現代史——事例研究——(3)1960年代②
  10. 青年と青年文化の現代史——事例研究——(4)1970年代
  11. 青年と青年文化の現代史——事例研究——(5)1980年代
  12. 青年と青年文化の現代史——事例研究——(6)1990年代～

【評価方法】 出席、レポートにより評価。

【テキスト】 特に用いない。参考書は講義時に指示。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
13691 13692	発達心理学特殊講義	選	春学期 秋学期	各2	3・4	後藤 宗理	
他の科目 との関連						他学科 履 修	可

【講義内容】 人文学部心理人間学科開講科目23726・23731「心理教育特殊講義」を参照。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
13705	学習心理学	選	夏期集中	2	3・4	関田 一彦	
他の科目 との関連						他学科 履 修	可

【講義内容】 人文学部心理人間学科開講科目23711「学習心理学」を参照。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
13706	学習心理学	選	秋学期	2	3・4	藤田 知加子	
他の科目 との関連						他学科 履 修	可

【講義内容】 日常的に「学習」という場合には、学校での勉強などを意味するが、心理学ではより広く、以前にはなかった行動や知識、考え方が身につく過程全般を「学習」と呼ぶ。つまり、人間の行動は、大部分が学習によって獲得されるといえよう。本講義では、人間の様々な行動の形成・維持・変容過程を理解することを目的とする。

具体的には行動モデルと情報処理モデルという、現代心理学における中心的な科学的思考方法を紹介する。

- 【講義計画】
- 1回 オリエンテーション：講義に際する注意
  - 2回 学習の心理学的研究：学習の定義と分類
  - 3回 学習の行動理論：条件づけ1
  - 4回 学習の行動理論：条件づけ2
  - 5回 学習の行動理論：社会的学習（モデリング）
  - 6回 学習の認知理論：初期の認知理論（ゲシュタルト心理学）
  - 7回 学習の認知理論：情報処理論1（記憶のモデル）
  - 8回 学習の認知理論：情報処理論2（メタ記憶、記憶の方略）
  - 9回 思考と問題解決：試行錯誤と洞察
  - 10回 動機づけと学習：動機づけの概念
  - 11回 学習の転移
  - 12回 理論とその応用

【評価方法】 期末試験（あるいはレポート）の結果で評価する。場合によっては講義内で小レポートを課すこともあるが、これも評価の対象とする。

【テキスト】 指定しない。講義内で参考図書等は紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
13711 13713	心理教育統計学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	野口 裕之
他の科目との関連						他学科履修可

**【講義内容】** 心理学の実験・調査研究を行う際に必要となる統計的方法の基本的な技法及び考え方について解説する。心理教育統計学Ⅰでは得られたデータの特徴を記述する為の統計的方法を、Ⅱでは得られたデータを基により一般的な結論を導く為の統計的方法を取り上げる。さらに余裕があれば項目分析、古典的テスト理論など心理教育統計学に固有の話題も取り上げる予定である。ⅡはⅠの履修を前提とする。特に理由がない限り、ⅠとⅡの両方を連続して履修することが望ましい。

**【講義計画】** Ⅰでは、平均・分散・標準偏差・相関係数・その他の関連性を表す指標、直線回帰について取り上げる。さらに余裕があれば多変量解析法の中から、重回帰分析と因子分析を取り上げて、それらの記述統計的な側面について解説する。

Ⅱでは、確率に関して簡単な復習を行った後、確率変数と確率分布・標本分布・仮説検定の考え方・仮説検定の実際について解説する。時間に余裕があれば、分散分析法の基本的な話題についても取り上げる。Ⅰと違ってⅡでは“考え方”あるいは“筋道”をじっくりと理解してもらうことを目標にする。従って、具体的な仮説検定の方法は精選して取り上げることになる。

**【評価方法】** 主として筆記試験によるが、一定の条件を満たした者には平常点を加味して評価する。詳細は授業時に説明する。

**【テキスト】** 特に指定せず、講義時に教材プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
13715	教育心理学特殊講義	選	夏期集中	2	3・4	グラバア俊子 楠本 和彦
他の科目との関連						他学科履修可

**【副 題】** 自己探求（自分の内的なメッセージに耳を傾ける）

**【講義内容】** この科目は人間が個人として成熟していく過程についての理解を深めることをねらいにしています。そのために一人一人の人生に内在している物語を探し出し、焦点をあて、味わい、表現することにより、自分の成長の方向性をつかむことを目指します。ボディワーク、イメージワーク、表現活動を行い、知的理解だけでなく、感性的な理解も深めていきたいと考えています。また、人との関わりで起こるさまざまなことを理解していく過程を体験します。

**【講義計画】**

第1日

- ・ゆったりと自分自身でいることができ、自分の内側に向かって安心して開いていくためのウォーミングアップの実習を行います。
- ・人間の成長に関する小講義やボディワーク、イメージワークなどの実習を行います。

第2日

- ・自分の内的なメッセージを聴いて、物語を作ります。
- ・その物語の発表の準備を個人またはグループで行います。

第3日

- ・物語を発表し、その物語に含まれる自分の成長の方向性を明確にします。

**【評価方法】** 出席及びレポートの提出によって評価します。なお、授業での体験を重視するため、欠席が全授業数の1/6を越えた場合は、体験の不足を補うための追加課題の提出を求めます。

**【テキスト】** なし

**【その他】**

- ・からだを動かしたり、活動しますので、動きやすい服装をしてきてください。
- ・ワークショップ形式で行いますので、全日程参加することを希望します。
- ・参考文献「神話の力」ジョーゼフ・キャンベル、ビル・モイヤーズ著、飛田茂雄訳、1992、早川書房

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
13721	人格心理学特殊講義	選	春学期	2	3・4	長谷川 雅雄	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 “心理的対人距離”の精神力動

【講義内容】 本講は「人格心理学」の発展編であり、特定のテーマに従って詳しく検討するものであるが、本年度は「心理的対人距離」について多角的に考えていくことにする。

人は誰しも、相手の人物に対してどのような「心理的距離」をとるべきかで、困ったり悩んだりすることが少なくないが、この「心理的距離」は、現実および想像上の対人関係において、かならずついてまわるものである。心理的距離と、それを調整する主体である「人格」との関係について注意深くみていくことを主眼とし、概ね以下の順序で進めていく。

【講義計画】 まず初めに、空間的対人距離と心理的対人距離との関連についてとりあげ、続いて私たちが日常において体験する心的距離の意義について考える。さらにこうした心的距離のありかたが、どのようにして形成されてくるかを、発達心理的観点から検討する。この場合、とくに距離の変動が顕著となる幼児期と青年期に焦点を当てることになるだろう。

【評価方法】 学期末の筆記試験によって評価する。また出欠席も重視する。

【テキスト】 テキストはとくに指定しない。必要に応じ、参考資料としてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
13723	人格心理学特殊講義	選	秋学期	2	3・4	長谷川 雅雄	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 臨床の場からみた心的距離

【講義内容】 前期に引き続き、人格と心的距離に関する問題を扱うが、後期では人格障害をはじめ、各種神経症や精神病などにおける心的距離の様相について詳しくみていく。

種々の病態における心的距離について知ることは、私たちの日常についてまわっている心的距離に関して深く理解するための手だてとなるはずである。

【講義計画】 臨床的病態における人格と心的距離に関するさまざまな理論や知見はかなり込み入っており、かならずしもなじみやすいものではないと思われる。そこで可能な限り、具体例として臨床事例やパトグラフィー研究、あるいは文学作品などを適宜とりあげることによって、理解しやすいものになりたいと思っている。

【評価方法】 前期に同じ。

【テキスト】 前期に同じ。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
13731	社会心理学	選	春学期	2	3・4	森 久美子	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 人文学部心理人間学科開講科目23721「社会心理学」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
13732	社会心理学	選	秋学期	2	3・4	森 久美子	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 集団過程への適応論的アプローチ

【講義内容】 われわれの生活は、さまざまな集団や社会の中で営まれている。そうした集団や社会で発生するダイナミクスについて、社会心理学的理論、特に適応論的視点に基づいて解説し、個人と集団・社会の相互作用過程について考察する。具体的なトピックとしては、意思決定や課題遂行における集団内の影響過程、社会的交換、集団間葛藤、などの問題を取り上げて論じる。

【講義計画】

1. 人間の社会性
- 2～3. 社会的影響過程
- 4～5. 社会的交換
- 6～7. グループとしての協調
- 8～9. 社会環境と適応
- 10～11. 集団間認知とステレオタイプ
12. 社会心理学における理論

【評価方法】 定期試験（筆記）

【テキスト】 亀田達也・村田光二 編著「複雑さに挑む社会心理学～適応エージェントとしての人間～」有斐閣

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
13741 13745	調査・測定法Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	浦上 昌則	
他の科目との関連	心理系のゼミに所属する者は履修することが望ましい。					他学科履修	可

【副題】 質問紙調査法

【講義内容】 人間理解のための心理測定の考え方や方法について理解を深める。特に、心理測定においてもっとも一般的な質問紙調査法の特徴について理解し、簡単な質問票の作成、データの収集、分析を試みる。3、4年生で質問紙調査を実施する予定の3年生を主な対象とする授業である。受講生には、予・復習を十分にすること、合わせて心理教育統計学Ⅰ、Ⅱを履修することを望む。

【講義計画】

調査・測定法Ⅰ

- (1) 心理学における心理測定の実際…『教育心理学研究』等から関連する論文を精読
- (2) 質問紙調査法に関する解説…質問紙の形式、質問紙の作成手順、作成上の注意事項
- (3) コンピュータ実習…使用方法、統計解析プログラム

調査・測定法Ⅱ

- (1) 質問紙の作成…テーマに関する討議、質問項目の検討、実施計画の立案
- (2) 調査の実施
- (3) 調査データの解析…項目分析などの分析方法、信頼性、妥当性に関する講義、分析実習
- (4) まとめ…報告書の作成

【評価方法】 調査・測定法Ⅰ：レポートなどに基づいて評価する。  
調査・測定法Ⅱ：出席、および最終報告書によって評価する。

【テキスト】 必要に応じて資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
13751	臨床心理学	選	春学期	2	3・4	長谷川 雅雄
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 人文学部心理人間学科開講科目23781「臨床心理学」を参照。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
13752	臨床心理学	選	秋学期	2	3・4	長谷川 雅雄
他の科目との関連	臨床心理学（前期）の続編					他学科履修可

【副 題】 心理療法に関する文献講読

【講義内容】 講義型式の春学期とは異なり、秋学期は「文献講読」を行なう。主として「心理療法」に関する問題を扱うが、特定の流派に限定することなく、種々の心理療法に通底する基本的な考え方を学ぶことに主眼をおく。

【講義計画】 心理療法に関する基本的な重要文献の講読を行なうので、発表者は指定文献のレジュメ（内容の要旨だけでなく、疑問点や自身のコメントを必ず書き添えること）を作成し、受講者全員に配布して発表する。そののち、他の受講生も疑問点や意見を出し合い、全体討論を行なう。

【評価方法】 レポート、発表、出欠席によって評価する。

【テキスト】 プリントしたものを配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
13761	心理臨床検査法Ⅱ	選	秋学期	2	3・4	井村 安之
他の科目との関連						他学科履修不可

【副 題】 ロールシャッハ法入門

【講義内容】 心理臨床家として必須の心理検査法であり、最も習得が困難であるとされているロールシャッハ・テストの実施法、分析法、解釈法などについて演習形式で学習をすすめていく。最終的には、受講生が実施した事例を検討することで、より臨床的な理解を深めていく機会としたい。なお、講義は一度でも休むと理解が難しくなるので、絶対に休まないという覚悟をもって受講すること。また、心理臨床に本当に関心のある人だけの受講を望む。

【講義計画】  
 (1) ロールシャッハ・テスト概説  
 (2) ロールシャッハ・テスト実施法  
 (3) ロールシャッハ・テスト分析法  
 (4) ロールシャッハ・テスト解釈法  
 (5) ロールシャッハ・テスト事例検討

【評価方法】 レポートの内容や出席状況などから総合的に評価する。